

國譯元曲選

楚昭公

國譯元曲選

楚昭公

節山學人



伍子胥一戰入郢





小 引

支那文學の盛を稱するもの、必ず漢の文、唐の詩、宋の詞、元の曲といふ。顧ふに余の壯年、笈を禹域に負ふや、曲學を王靜庵に問ひ、葉先生に従つてその底蘊を叩けり。歸朝の後、東京帝國大學に支那文學を講じ、傍ら啓明會安田修德會の援助に藉り、元曲選の訓譯を完成し、引續き語彙の註釋に従事し、力を用ふること三十年一日の如し。今茲己卯、大學内規に依り、致仕するに及び、故舊受業の諸君胥謀り、余の爲に記念會を設け、博く資金を醸出して研究費に充てらる。余感激措く能はず。先づ百種曲中の傑作を選び、その對譯を逐次刊行して、知遇の恩に酬ゆる所あらんと欲す。若しそれにより支那の認識を新にし、興亞の國策に資するを得ば幸甚なり。偶、目黒書店主人之を聞き、自ら進んで事に當らんと請ふ。因て試に、楚昭公一篇を單行して諸君に贈呈し、以て記念會の盛意に答ふと云爾。

昭和十四年四月

節 山 學 人

小
引

周甲自述

昨是今非思慨然
半生心血傾元曲

鄧山

回頭六十歲頻還
三復誠家百種篇

楚昭公

元曲選第十七
史劇春秋門

Drame historique, Tchao-kong, prince de Thsou. (Bazin)

第一折 正末唱 仙呂點絳脣套數 塞山韻

第二折 正末唱 越調鬲鶯鶯套數 尤侯韻

第三折 正末唱 中呂粉蝶兒套數 魚模韻

第四折 正末唱 雙調新水令套數 齊微韻

題目 伍子胥一戰入郢

正名 楚昭公疎者下船

脚色

正末 楚昭公 冲末 吳王闔閭

外 孫武子 伍子胥 芊旋 申包胥 秦昭公

百里奚

雜色 卒子 使者 詭神 鬼力

旦兒 昭公夫人 二旦 繼室夫人

僚兒 小公子 丑 稍公

淨 伯嚭 費無忌 姬聲

雜劇は宋に起り、元に成つた。曲あり白あり科もあるが、曲が主であるに因り、之を元曲といふのである。而して大都即ち今の北京が中心であつた故に之を北曲といひ、明の南曲と區別する。さて北曲には極めて嚴格な規則がある。

(一) 一本四折のこと。

折とは幕に當る。一劇は必ず四幕に限られて居る。

(二) 楔子を用ふること。

四折にて不足する場合は楔子を用ふ。序幕又は間幕に當る。

(三) 一折一調一韻のこと。

元曲に用ひられる宮調は九である。韻は中原音韻の十九部韻を通押する。

(四) 一人獨唱のこと。

曲を唱ふものは正末か正旦一人に限られ、他の役人は白を説べる丈で、唱はない。

(五) 題目正名のこと。

劇の尾に題目正名がある。優人下場の後に伶人が高誦する。

脚色には末・旦・淨等の別がある。末は立役、沖末は副役、外は老役、淨は仇役、丑は道化、旦はおやま、貼旦は多く妓女又は下婢を扮す。

* 九宮調 黃鐘宮 正宮 大石調 仙呂宮 中呂宮 南呂宮 雙調 越調 商調

* 十九部韻 東鍾 江陽 支思 齊微 魚模 皆來 真文 寒山 桓歡 先天

蕭豪 歌戈 家麻 車遮 庚青 尤侯 侵尋 監咸 廉纖

解題

本劇は元の鄭廷玉の撰である。鄭廷玉は錄鬼簿に據れば、元曲作家の第一期（一統前）に屬し、彰徳の人とだけで、その閱歴は詳でないが、編する所の雜劇は二十三種の多きに上つて居る。但し太和正音譜には二十一を擧ぐるのみであるから、恐くは重複であらう。

楚昭王疎者下船錄鬼簿 疎者下缸大和正音譜

齊景公駟馬奔陣 駟馬奔陣

采石渡漁父辭劍 漁父辭劍

冷臉劉斌料到底 劉斌料到底

布袋和尚忍字記 忍字記

孟縣宰因禍致富 因禍致富

風月郎君雙教化 雙教化

冤報冤貧兒乍富 貧兒乍富

宋上皇御斷金鳳釵 金鳳釵

解題

包待制智勘後庭花

吹簫女悔教鳳皇兒

尉遲公鞭打李道煥

子父夢秋夜鑾城驛

賣兒女沒興王公綽

一百二十行販揚州

看錢奴冤家債主

奴殺主因禍折福

曹伯明復勘賊

漢高祖哭韓信

蕭丞相復勘賊

孟姜女送寒衣

風月七真堂

孫恪遇猿

右の外、王靜庵の曲錄には、元曲選にある「崔府君斷冤家債主」をば、也是圖書目に據つて鄭の作として二十四種を擧げてある。而して元曲選には「楚昭公疎者下船」「包待制智勘後庭花」「布袋和尚忍字記」の三種を收めてある。なほ同選中に無名氏となつて居る「看錢奴賣冤家債主」を曲錄には鄭の作として凡て五種が今に傳はつて居る。因みに本劇の題名の楚昭公は楚昭王を正しとする。楚は春秋の時既に王號を僭稱して居る。太和正音譜にはその詞を評して

鄭廷玉之詞如珮玉鳴鑾

といつて居るのは、蓋し韻律の鏗鏘なるを稱するのであらう。

さて本劇の内容は吳の軍勢が楚の國都に攻め入り、楚の昭王が逃難した事を演じて居るが、演ずる所の關目は多く虚構である。その梗概を述べれば、吳國に魚腸・純鉤・湛盧といふ三口の寶劍があつた。これはその昔越王允常が歐冶子に命じて監製せしめたものであつたが、後吳王闔閭が越を伐つて之を獲、大切に秘藏して居た處、突然湛盧の劍が見えなくなり、楚の宮中に飛び込んだ。楚の昭王は大喜びで之をそのまゝ着服してしまつた。吳王は之を聞き知つて、再三返却を求めたが、楚王は一向之に應じない。そこで吳は遂に師を起し、孫武を軍師とし、伍員ごゐんを元帥とし、四十萬の大軍を率いて楚を伐たしめた。伍員字は子胥、世に楚の臣であつたが、父の奢と兄の尚とが費無忌の

讒言により殺されたので、呉に亡命して復讐を圖つた。是に至り呉の大將となつて楚に討ち入つたから、昭王は大に驚き、弟芊旋の外、申包胥を召して評定した。申包胥は元來伍子胥と親友であつたが、子胥が別れる時に、必ず楚を覆へして見せるといつたのに對し、包胥は誓つて楚を復へすと語つた。そこで包胥は昭王に勸めて、呉の銳鋒を避けて戦はず、堅く城を守つて援兵を待たしめ、自ら秦國に援兵を乞ひに出かけた。昭王の詞。(以下同じ)

〔寄生草〕 爾須想着歸期急，休言他去路難止，不過船臨古渡垂楊岸，路經險道瑯琊坂，小可如君騎羸馬連雲棧，你休辭山遙水遠路三千，我專等你堅甲利刃那兵十萬，第一折やがて呉の兵が楚に攻め込んだから、昭王は費無忌を大將として、伍子胥を迎へ戦はしめ、自分は芊旋と將臺に登つて觀戰をした。

〔金焦葉〕 那一個錦征袍窄窄的把獅蠻款髻這一個鳳翅盔律律的把紅纓亂丟那一個點鋼鎗支支的把黃幡狼掀這一個鐵胎弓率率的把雕翎穩扣。

兩將一騎打ちの勝負は、さながら一幅の錦繪を見る如くである。無忌は到底子胥の敵ではなく、忽ち擒せられて楚軍は大敗した。

〔聽藥王〕 你你你非敵手強賣口只待要戰爭酣處討頭他他他怎放走緊逼逐早殺

的俺人亡馬倒積成丘恰便似落葉盡歸秋第二折

昭王は弟芊旄と夫人公子を連れて逃げ出す後から、呉の兵が追つかける。

〔薛春風〕 則俺這妻子似瑟和琴弟兄如手共足俺一家四口兒盼程途俺端的苦苦幾能勾罷息干戈還歸宮闕撫安黎庶。

やがて大江の岸に到り、一隻の漁船を雇つて渡つた。恰も是の日は厄日で、中流に差しかゝると、風が俄に起り、大浪が立つて難船した。船頭は舟が小さくて危険だから、縁の遠いものが一人下りて呉れといひ出し、昭王は誰にせんかと、頗る困惑した。

〔鬬鵲〕 兄弟是同氣連枝妻子是多情伴侶眼睜睜弟鬬着兄悲切切子隨着母好教我種種勞勞意不舒他道是霎時間都命卒着誰人買馬招軍重與俺揚威耀武。

ぐづ／＼して居る内に、波は益々荒くなり、船頭は早く下りて呉れと督促する。そこで芊旄が飛び込もうとすると、昭王は袂をつかんで引き止めた。

〔普天樂〕 俺只見掩掩潑潑畫船兒歪囊囊突突稍公絮便直恁般險惡待不的須與兒悲啼爲母離娘痛哭拋兒去咬你個掌命司的稍公可便休催促百忙裏割不斷他子母每腸肚但保全了孩兒的身軀怎顧得夫人的性命緊揪住俺這兄弟的衣服。

そこでじむなく夫人が投身したが、それでも船はまだ重い。船頭は更に一人に下りて呉れと迫まつた。芊旋は再び飛び込もうとしたが、昭公は復之を引き止めたので、公子が進んで身を投じた。

〔滿庭芳〕 哀哉子母。如今希有。從古應無。又不是進膠舟。那日昭王渡。怎生的也共爲魚兒也。你捨性命投江。伴母妻也。你可便守貞烈。出嫁從夫。似這等難相顧。總只是皇天喪楚教你去。龍領下探明珠。

やつと波が靜まつて、江を濟ることが出來、岸に登つてから、兄弟は路を分つて、他國に投奔した。

〔二煞〕 兄弟也。嗒相逢時。有限期。別離了。無限苦。兩下裏。欲去也。頻回顧。好教我痛煞煞。提着膽。向力尖過。倒不如。悄促促。低着頭。在劍下。誅兄弟也。哭一聲。行一步。俺兄弟情氣。吁成雲霧。他子母。恨淚。滴滿江湖。第三折

是より先き、申包胥は秦に赴いて援兵を乞うたが、秦の昭公は容易に許さないのので、包胥は驛中に止まり、牆に依つて七日七晩ぶつとはしに慟哭した。秦の君臣は爲に感動して、大將姬輩に命じ、十萬の大軍を起して楚を救はしめた。伍子胥は申包胥との前誓を思ひ、兵を收めて引き揚げたので、昭王は復び楚に還つた。

駐馬聽^シ 伍員無^シ敵入^リ楚地^ニ鞭屍^ニ尙恨^ム遲^ク包胥有^リ智借^ル秦兵^ヲ復國^ヲ偏能^シ疾^シ雖然^モ他會^ニ臨潼^ニ
八面虎狼^ノ威^ヲ怎^ニ如^ク你倚^リ蕭牆^ニ七日的^ノ英雄^ヲ淚^ヲ我今日^ニ安居^ス寶殿^ニ裏^ニ猛想^フ起^リ渡^リ江^ヲ時不^レ覺^シ
心如^ク碎^レ。

間もなく芋旋も隨國より回り、昭王も繼配を娶つた。然るに初め夫人公子の江に投するや、龍神はその賢孝を憐み、之を救つて岸に上らしめ、二人とも申屠氏に救はれた。申屠氏はその貴人なるを知り、厚く世話をした。今や楚國の恢復した由を聞いて皆歸つて來た。

〔折桂令〕 我^ハ則^チ道^ラ你^ヲ越^ス橫^ニ波^ヲ一^ニ去^リ無^シ消息^ヲ可^シ正^シ是^ニ堂^上糟^ニ糠^ヲ休^レ猶^モ傲^シ牆^上泥^ヲ皮^ヲ想^フ當^ニ日^ニ船^ニ
小江深^ニ風高^ニ浪湧^ク雲鎖^リ天低^ニ若^シ不^レ是^ニ賢^ニ達^ニ婦^ニ三^ニ從^ニ四^ニ德^ニ若^シ不^レ是^ニ仁^ニ孝^ニ子^ニ百^ニ順^ニ千^ニ隨^ニ我^ニ則^チ道^ラ
夫婦分離^シ父子乖^レ違^フ怎^ニ能^ク救^フ再^レ得^テ團圓^ヲ還^リ見^ル這^ニ笑^ハ眼^ヲ歡^ム眉^ヲ。

是に至り、兄弟や妻子と再會することが出來て、昭王は大喜びの處へ、秦から百里奚を使者として、楚の公子に結婚を申込んで來たので、一家完聚の上に、秦楚の同盟が結ばれ、めでたく大團圓に終つた。第四折

以上は實に本劇の梗概であるが、筋がよく通つて居る上に、詞彩も頗る麗はしい。梁廷樞の曲話に楚昭公雜劇第一二折曲詞平易尙無大出色處第三折以下、則字字珠璣、言言玉屑、自

「昆倒管漸入佳境論者謂元人雜劇至第四折爲強弩之末未盡然也」と述べてあるが、大に我が意を得て居る。又無名氏の傳奇彙考に、

劇中事雖不盡、然申包胥之忠、楚昭公之友愛、夫人公子之賢孝、皆足以勸世也。

といつて居るが、此の論も亦同感である。第三折弟と妻子と死を争ふ段は此の曲の骨子である。若し夫れ妻子を殺さんか、恩愛の絶ゆるを奈何せん。弟を棄てんか、宗社の亡ぶを奈何せん。昭王は遂に妻子の親を以て弟に及ばずと主張する所以は、畢竟敗軍の際、宗社を重しとなし、再び軍旅を整へて恢復の計をなすは長弟でなければ出來ることではなく、婦人や子供では何の役にも立たない。是が昭王の弟を先にして、妻子を後にした所以である。

抑、賢弟が嫂の爲に死を争ひ、良妻孝子が身を以て難に代つたことは、固より儒を起て頑を振ふに足るものがある。而して上帝が賢婦孝子を憐み、以て一家の團圓を全うし、加ふるに秦楚婚を結び、國運の益々隆なるは、勸善懲惡の舊套を脱しないにせよ、恩義兼ね至り、情詞雙絶、誠に雜劇の上乗である。因みに謡曲「七騎落」は本劇の趣向を取つて更に日本化したものではあるまいか。

楚昭公疎者下船雜劇

鄭 廷 玉 撰
鹽 谷 溫 譯

第一折

〔冲末扮吳王領卒子上。詩云〕
太伯當年曾遜避。至今子姓居
吳地。延陵何事慕高風。幾使孤
家不承繼。某乃吳王闔廬。名姬
光者是也。昔年征伐越國時。獲
得寶劍三口。一曰魚腸。二曰純
鉤。三曰湛盧。某常佩之。夫此劍
者。昔聞越國允常。使歐冶子監
製。採五山之鐵精。煉六合之金

〔冲末吳王に扮し、卒子を領して上り、詩に云ふ〕
太伯當年曾つて遜避す。今に至るまで子姓吳の地
に居る。延陵何事ぞ高風を慕ふ。幾んど孤家をし
て承繼せざらしむ。某は乃ち吳王闔廬名は姬光と
は是れなり。昔年越國を征伐せし時、寶劍三口を
獲得す。一に曰く魚腸、二に曰く純鉤、三に曰く
湛盧、某常に之を佩す。夫れ此の劍は、昔聞く越
國の允常歐冶子をして監製せしむ。五山の鐵精を
採り、六合の金氣を煉り、雨師を感得して塵に瀝

氣、威得雨師灑塵。雷師擊節。蛟龍捧鱗。天帝焚炭。候天伺地。陰陽同體。久而成功。帶之有威。用之無敵。真乃世之奇寶也。一向在庫中收藏。忽然湛盧失其所。在。聞知此劍飛入楚國。被昭公收得。某數次遣使。多將金幣索取不肯付還。更待干罷。令人與我喚將孫武來者。

〔卒子云〕

理會的。孫武安在。

〔外扮孫武子上。詩云〕

新書著就十三篇。篇篇兵法妙通玄。君王不信親相試。宮中賜出女三千。某乃孫武是也。本齊

がしめ、雷師節を撃ち、蛟龍鱗を捧げ、天帝炭を焚く。天に候ひ地に伺ひ、陰陽體を同じうし、久しくして功を成す。之を帶ぶれば威あり。之を用ふれば敵無し。眞に乃ち世の奇寶なり。一向庫中に收藏せるに、忽然として湛盧其の所在を失ふ。聞き知る此の劍飛んで楚國に入り、昭公に收得せられると。某數次使を遣し、多く金幣を將つて索取すれども、肯て付還せず。更に干しく罷めんと待せんや。令人、我が與に孫武を喚び將ち來れよ。

〔卒子云ふ〕

理會的。孫武安くに在りや。

〔外孫武子に扮して上り、詩に云ふ〕

新書著し就十三篇、篇篇兵法妙玄に通ず、君王信ぜず親しく相試む、宮中賜ひ出す女三千。某は乃ち孫武是れなり。本齊國の人、兵法を以て吳王

國人以兵法得見吳王、教練女兵數千、驅之水火、莫敢逃避、皆因某號令嚴威所致。兵法有云、約束不明、申令不熟、將之罪也。既已明而不如法、吏士之罪也。法令熟行、君命有所不受。某如今現爲吳國大將、主公呼喚、須索走一遭去、令人報復去道、有孫武來了也。

〔卒子報科、云〕

軍師到。

〔做見科、孫武云〕

主公呼喚、有何事商議、

〔吳王云〕

且一壁有者、令人與我喚將伍子胥伯嚭來者。

に見ゆるを得たり。女兵數千を教練す。之を水火に驅るも敢て逃避する莫し。皆某の號令嚴威の致す所に因る。兵法に云ふあり。約束明らかならず、申令熟せざるは將の罪也。既に明らかにして法の如くならざるは、吏士の罪也。法令熟行すれば、君命も受けざる所ありと。某如今現に吳國の大將たり。主公呼喚す。須索らく走くこと一遭し去くべし。令人、報復し去いて道へ。孫武來れるありと。

〔卒子報する科、云ふ〕

軍師到れり。

〔見ゆるを做す科、孫武云ふ〕

主公呼喚す。何事の商議がある。

〔吳王云ふ〕

且く一壁に有れ。令人、我が與に伍子胥伯嚭を喚び將ち來れ。

〔卒子云〕

伍子胥安在。

〔外扮伍子胥淨扮伯嚭同上〕伍子胥詩云

千里間關棄楚歸。短簫閒向市中吹。可憐不遂英雄志。辜負當年舉鼎威。某姓伍名員字子胥。現爲吳相國。這是伯嚭。皆楚人也。某因費無忌讒譖害我父兄。不得已棄楚投吳。思圖報復。恰遇伯嚭也來投吳。一者爲同是鄉里。二者又爲同是避讐。以此舉薦於朝。爲太宰之職。今日主公呼喚。不知有甚事。須索走一遭去。令人報復去道。有伍員伯嚭都來了也。

〔卒子云〕

伍子胥安く在りや。

〔外伍子胥に扮し、淨伯嚭に扮して、同上る〕〔伍子胥詩に云ふ〕

千里間關楚を棄てゝ歸り、短簫＊閒に市中に向つて吹く、憐む可し英雄の志を遂げず、辜負＊す當年鼎を擧ぐるの威。某姓は伍、名は員、字は子胥、現に吳の相國たり。これは是れ伯嚭、皆楚人なり。某資無忌讒譖して我が父兄を害するに因つて、已むを得ず楚を棄て吳に投じ、報復を圖らんと思ふ。恰も伯嚭也來つて吳に投ずるに遇ふ。一者、同じく是れ郷里なるが爲に、二者、又同じく是れ讐を避くるが爲に、此を以て朝に舉薦して太宰の職となす。今日主公呼喚す。甚事あるを知らず。須索らく走くこと一遭＊し去くべし。令人、報復し去いて道へ、伍員・伯嚭都て來れるありと。

〔卒子報科云〕

相國太宰到。

〔見科〕〔伍子胥云〕

主公呼喚。有何事商議。

〔吳王云〕

軍師。請您衆將來。不爲別事。則爲湛盧寶劍飛入楚國。某數次差人多將金幣索取。不肯付還。今請軍師衆將商議。有何計可以得此寶劍。

〔孫武云〕

主公。多聞。這湛盧之劍。乃越國歐冶子所製。斬鐵截石。斷水吹毛。眞爲無價之寶。這個不可不取。

〔伍子胥云〕

〔卒子報する科云ふ〕

相國太宰到れり。

〔見ゆる科〕〔伍子胥云ふ〕

主公呼喚す。何事の商議か有る。

〔吳王云ふ〕

軍師よ、您衆將を請じ來れるは別事の爲ならず。則ち湛盧の寶劍飛んで楚國に入り、某數次人を差し、多く金幣を將つて索取すれども肯て付還せざるが爲に、今軍師衆將を請じて商議す。何の計有つてか以て此の寶劍を得べき。

〔孫武云ふ〕

主公、多く聞け、這の湛盧の劍は、乃ち越國の歐冶子の製する所、鐵を斬り、石を截ち、水を斷ち毛を吹く。眞に無價の寶たり。這個は取らざる可からず。

〔伍子胥云ふ〕

主公在上。今楚國有二將。乃是子期子常。論子期。廉而愛士。頗知兵法。奈有智而少勇。子常。怯勢而驕。不惜軍士。有勇而無智。皆不足爲慮。況有奸臣。費無忌當權。必然暗行讒譖。未必用他。主公何不先差人。下將戰書去。然後統兵征伐。有何難哉。

〔伯駱云〕

若是楚昭公用那費無忌老頭兒對陣。也不消伍相國費力。只我伯駱身上。包殺的他尿流屁滾。

〔吳王云〕

相公言者當也。我如今先差人

主公の在^{おんまへ}上、今楚國に二將あり。乃ち子期子常なり。子期を論ずれば、廉にして士を愛し、頗る兵法を知る。奈^なせん智有りて勇少し。子常は勢を怯^{たふ}んで驕り、軍士を惜します。勇有れども智無し。皆慮と爲すに足らず。況や奸臣費無忌の權に當る有り、必然^{かならず}暗に讒譖を行はん。未だ必ずしも彼を用ひじ。主公、何ぞ先づ人を差^さして戰書を下しもち去^いかしめざる。然る後兵を統べて征伐すれば何の難きことか有らんや。

〔伯駱云〕

若し是れ楚の昭公那の費無忌老頭兒を用ひて對陣せしむれば、也伍相國の力を費すを消ひず。只我が伯駱の身上、他を殺^{ころ}して尿流屁滾せしむるを包^{ふく}せん*。

〔吳王云〕

相公の言ふところ當れり。我如今先づ人を差^さして

下將戰書去、若孫武爲軍師。相國爲先鋒、統領四十萬雄兵。與他交戰去、則要您小心在意、成功而同。

〔伍子胥云〕

則今日辭別了主公、教場中點就四十萬雄兵。一來爲楚昭王收了我家寶劍不還、二來有費無忌害我父兄之讐、誓當報復、管取馬到成功。奏凱回來也。

〔詩云〕

棄楚奔吳幾度秋、可憐猶未雪冤讐。今朝統領雄兵去、不斬奸臣誓不休。

〔同下〕〔吳王云〕

軍師同相國太宰三人去了。吾

戰書を下しもち去かしめ、孫武をして軍師となり、相國先鋒となり、四十萬の雄兵を統領して、他と交戦し去か、済めん。則、您、小心意に在り、成功して、回らんことを要す。

〔伍子胥云〕

則ち今日主公に辭別し、教場中に四十萬の雄兵を點就す。一來には楚の昭王我が家の寶劍を收めて還さざるが爲に、二來には費無忌の我が父兄を害するの讐あり。誓つて當に報復すべし。馬到つて功を成し、凱を奏して、回りに來るを管取す。

〔詩に云ふ〕

楚を棄て吳に奔りてより幾度の秋、憐む可し猶未だ冤讐を雪がず、今朝雄兵を統領し去る、奸臣を斬らずんば誓つて休まず。

〔同に下る〕〔吳王云〕

軍師と相國太宰と、共に三人去けり。吾此の一戦を

觀此一戰破楚必矣。

〔詩云〕

伍相國智勇無雙。馬到處誰敢
相當。將郢城蹕爲平地。取湛盧
重返吳邦。

〔下〕

〔正末扮楚昭公。同外扮芊旋領
卒子上。〕〔正末云〕

某乃楚昭公是也。數年前正寢
之間。忽聞一聲響亮。俄而素光
照室。爽氣逼人。驚起視之。見一
口寶劍墜於榻下。遍問朝臣。皆
莫能測其來歷。有司馬子期。他
言隱士風胡子能辨此劍。遂請
視之。風胡子曰。此劍號爲湛盧。
聞越國允常使歐冶子鑄此寶

觀るに、楚を破ること必せり。

〔詩に云ふ〕

伍相國は智勇變び無し、馬到る所誰か敢て相當ら
ん、郢城をば蹕んで平地と爲し、湛盧を取り重ね
て吳邦に返らん。

〔下る〕

〔正末楚の昭公に扮し、外の芊旋に扮せると共に卒
子を領して上る。〕〔正末云ふ〕

某は乃ち楚の昭公是れなり。數年前正に寢ぬるの
間、忽ち一聲の響亮たるを聞き、俄にして素光室を
照らし、爽氣人に逼る。驚き起ちて之を觀るに、
一口の寶劍の榻下に墜つるを見る。遍く朝臣に問
ふも皆能く其の來歷を測るなし。司馬子期あり。
他は言ふ、隱士風胡子能く此の劍を辨ぜんと。遂
に請じて之を視しむ。風胡子の曰く、此の劍は號
して湛盧と爲す。聞く越國の允常、歐冶子をして

劍、後歸于吳、此劍乃五金之英、太陽之精、帶之有威、用之無敵、眞希世奇寶、某聞而大喜、佩服在身、未嘗輕離、誰想吳王闔廬、屢屢遣使索取、某不肯還他、但吳國方強、倘若再來相索、可怎了也

〔辛旋云〕

哥哥、您兄弟想來、此劍元是吳國之寶、他既來索取、不如做個人情、送還了他、兩國和諧、可不好那。

〔正末云〕

兄弟、你那裏知道、此劍非同小可、既到吾國、也是天使其然、豈可便與他去。

此の寶劍を鑄した。後に吳に歸すと。此の劍は乃ち五金の英、太陽の精、之を帶ふれば威有り、之を用ふれば敵無し。眞に希世の奇寶なりと。某聞いて大いに喜び、佩服して身に在り、未だ嘗て輕ろしく離さず。誰か想はん吳王闔廬屢屢使を遣して索取せんとは。某肯て他に還さず。但吳國方に強し。倘若再び來つて相索めなば可に怎了也。

〔辛旋云〕

哥哥よ、您兄弟想ひ來るに、此の劍は元是れ吳國の寶、他既に來つて索取す。個の人情と做して他に送還するに如かず。兩國和諧するは可に好からずや。

〔正末云〕

兄弟よ、你那裏知道、此の劍は小可と同じきに非ず。既に吾國に到るは、也是れ天の其れ然らしむるなり。豈便ち他に與へ去る可けんや。

〔唱〕

〔仙呂點絳脣〕這劍呵水刃霜寒。
玉華光燦。孜孜看。怎飛來坐榻
之間。委實的紫氣冲霄漢、

〔芊旋云〕

哥哥。量此物強殺者波。則是一
口劍。那裏取神光冲射牛斗之
上。聽那風胡子做甚麼。

〔正末唱〕

〔混江龍〕這劍真爲奇幻。世人休
做等閒看。我則見英英結秀。湛
湛生斑。這劍本在東方平百越。
今日個飛來南國鎮荆蠻。這劍
按陰陽幹運。順天地循環。採銅
出耶溪之水。取錫在赤堇之山。

〔唱ふ〕

この劍は、水刃霜寒く、玉華光燦たり。孜孜
看れば、怎坐榻の間に飛び来る。委實的紫
氣霄漢に冲す。

〔芊旋云ふ〕

哥哥よ、量るに此の物強殺者波、則是れ一口の劍、
那裏取神光牛斗の上に冲射せん。那の風胡子に聽
いて做甚麼。

〔正末唱ふ〕

この劍は眞に奇幻と爲す。世人等閑の看を
すことなかれ。我は則見る英英秀を結び、湛湛
斑を生ずるを。この劍は本東方に在つて百越
を平ぐ。今日個南國に飛來して荆蠻を鎮む。
この劍は陰陽の幹運を按じ、天地の循環に順
ひ、銅を取るは耶溪の水に出で、錫を取るは

下雷雨消融塵滓。有神鬼守護
罍間。這劍他抱精靈多氣爽助
神威。眞乃是免憂愁絕驚恐除
危難。現如今河清海晏。國泰的
這民安。

〔使命上。詩云〕

人去似星馳。江隔如天塹。親捧
一緘書。來索千金劍。小官乃吳
國使命是也。奉主公的命差往
楚國下戰書。走一遭去。可早來
到也。小校報復去道。有吳國使
命在於門首。

〔卒子報科。云〕

喏。報的大王得知。有吳國使命
求見。

赤堇の山に在り。雷雨を下して塵滓を消融し、
鬼神有りて罍間を守護す。這の劍他は精靈を
抱き氣爽多く神威を助く。眞に乃ち是れ憂愁
を免れ驚恐を絶ち危難を除く。現に如今河清
み海晏く、國泰くして這の民安し。

〔使命上り、詩に云ふ〕

人は去つて星馳に似たり、江は隔てて天塹の如し、
親しく一緘の書を捧じ、來つて千金の劍を索む。小
官は乃ち吳國の使命是れなり。主公の命差を奉じ、
楚國に往き戰書を下し、走くこと一遭し去かん。
可早來り到れり。小校、報復し去いて遣へ。吳國
の使命門首に在る有りと。

〔卒子報する科。云ふ〕

喏。大王に報的得知。吳國の使命見ゆるを求むる
あり。

正末云

道有請

〔使命做見科〕正末云：

使命。此來有何公事。

〔使命云〕

小官是吳國來的使命。有書在此。

〔正末云〕

將書來。我看。原來爲這一口劍。不與他。果然下將戰書來。似此可怎了也。

【唱】

〔油葫蘆〕久與吳國姬光阻面顏。

〔竿施云〕

哥哥。既是他下將戰書來。憑着俺這裏兵多將廣馬壯人強。量

〔正末云〕

道有請カミシラシテ
C
・*

「使命見ゆるを做す科」正末云ふ

使命よ、此に來るは何の公事か有る。

「使命云ふ」

小官は是れ吳國より來れる使命なり。書の此に在る有り。

「正末云ふ」

書を將ち來れ、我看ん。原來這の一口の劍を他に
與へざるが爲に、果然戰書を下し將ち來る。此の
似くんば可に怎了也。

「唱ふ」

久しく吳國の姫光と面顔を阻つ。

〔芋旋云ふ〕

哥哥おによ、既に他かれは戰書いくさを下くだし將もち來きる。俺こち遣ち裏兵うらへい多く將廣しやうくわうく馬壯ばさうに人強ひときに憑よれは、量はかりるに吳國ごこくの

吳國姬光到的那裏就怕着他哩。

〔正末云〕

我不怕姬光。怕的是那一個人。

〔唱〕

怕的那伍盟府天下罕。

〔莘旋云〕

量子胥有何英雄。哥哥直這般怕他。

〔正末唱〕

他正是良才奇寶在人間。我則道重脩訊問傳書簡。原來他相期惡戰呈公案。

〔莘旋云〕

雖然那子胥多有本事。憑着俺

姬光到るも、那裏に他を怕れんや。

〔正末云ふ〕

我は姬光を怕れず。怕れるは是れ那の一個人。

〔唱ふ〕

怕るるは那の伍盟府の天下に罕なるを。

〔莘旋云ふ〕

量るに子胥何の英雄か有る。哥哥よ、直這般他を怕るか。

〔正末唱ふ〕

他は正に是れ良才奇寶人間に在り。我は則道ふ重ねて訊問を修め書簡を傳ふと。原來他惡戰を相期し公案を呈す。

〔莘旋云ふ〕

那の子胥多く本事有りと雖然も、俺が這の名山大

這名山大川長江險阻那伍子胥怎便容易到的俺國來。

〔正末唱〕

你休道是阻着大川隔着大山。
便有那波濤滾滾長江限。假若是無敵手戰應難。

〔莘旋云〕

哥哥若當初依着您兄弟早早送還了這劍。也不到今日。事已至此。不如會集衆官商議保舉一員名將。領兵與伍子胥交戰。可不好也。

〔正末唱〕

〔天下樂〕哎。抵多少惡語傷人六月寒。無也波端着俺把劍還到

川長江險阻に憑れば、那の伍子胥^{ごしこ}でか便ち容易に俺が國に到り來らんや。

〔正末唱ふ〕

你道ふ休れ是れ大川を阻て大山を隔つと。便ひ那の波濤滾滾たる長江の限有るも、假若是れ敵手無くんば戰ひ應じ難からん。

〔莘旋云ふ〕

哥哥よ、若し當初您兄弟に依りて、早早這の劍を送還せしならば、也今日に到らざりしに。事已に此に至る。衆官を會集して商議し、一員の名將を保舉し兵を領して伍子胥と交戦するに如かず。可に好からずや。

〔正末唱ふ〕

哎、抵多少惡語人を傷く六月の寒。無也波端着俺をして劍を還さしむ。如今に到りては事已

如今事已在前悔後晚。現放着
擇士宮拜將壇。那裏有出羣材
眞楚產。

〔云〕

本待把這厮殺壞了。古云。兩國
相持。不斬來使。你回去則說。選
日交兵便了。

〔使命云〕

理會的。出的這門來。不敢久停
久住。回主公話。走一遭去。

〔詩云〕

楚昭公十分氣賭。恰待要將咱
聲鼓。便不怕堂堂使臣。也隄防
伍家盟府。

第一折

に前に在りて後を悔ゆるも晩し。現に士を擇
ぶの宮、將を拜するの壇を放着も、那裏にか
羣を出づるの材、眞の楚產有らんや。

〔云ふ〕

本這厮をば殺壞せんと待せり。古云ふ、兩國相持
するも、來使を斬らずと。你回りに去いて則說へ、
日を選んで兵を交ふれば便了と。

〔使命云ふ〕

理會的。この門を出で来る。敢て久しく停り久
しく住らじ。主公の話を同様に走ること一遭し去
かん。

〔詩に云ふ〕

楚の昭公十分に氣賭す。恰も咱をば鼓に聲らんと
待要す。便ち堂々たる使臣を恐れざるも、也伍家
盟府を隄防せよ。

一五

〔下〕〔羊施云〕

使命去^レ了也。哥哥、這戰書上、怎麼寫着來。

〔正末云〕

這戰書上寫着道、孫武爲軍師、伍子胥爲元帥、伯嚭爲先鋒、領兵四十萬、與俺交戰、爭奈俺國將老兵驕、怎生是好也。

〔羊旋云〕

哥哥、豈不聞、古云軍來將敵、水來土堰、俺這裏有司馬子期、子常、申包胥、皆是南楚有名之將、請將來與他商議、有何不可。

〔正末云〕

兄弟、你那裏知道。

〔唱〕

〔下〕〔羊旋云〕

使命去^レれり。哥哥よ、這の戰書の上に怎麼寫^かむるや。

〔正末云〕

這の戰書の上に寫^かめて道^いふ、孫武軍師となり、伍子胥元帥となり、伯嚭先鋒となり、兵四十萬を領して俺と交戰すと。爭^かせん俺が國は將老ひ兵驕る。怎^い生是好也。

〔羊旋云〕

哥哥よ、豈聞かずや、古云ふ軍來らば將敵し、水來らば土堰ぐと。俺這裏には司馬子期、子常、申包胥あり。皆是れ南楚有名の將なり。請^いじ將^もち來り、他と商議せば何の不可あらん。

〔正末云〕

兄弟よ、你那裏知道。

〔唱〕

〔那吒令〕我端坐在朝堂。這間聚
集着英才。這班怎比的會臨潼
那番。

〔芊旋云〕

這伍子胥當初在臨潼會上。怎
生般英雄。哥哥是說一遍。您兄
弟聽咱。

〔正末唱〕

那裏取這般忠義人。英雄漢。他
舉鼎時。多敢有神力相關。

〔芊旋云〕

哥哥。你兄弟想來。秦國文有百
里奚。武有姬釐。可怎生都不如
那子胥。倒讓他做個盟府。

〔正末唱〕

我端坐して朝堂這の間に在り。英才這の班
を聚集すれども、怎でか臨潼に會せし那の番
に比せんや。

〔芊旋云ふ〕

這の伍子胥、當初臨潼會上に在つて怎生般の英雄
ぞや。哥哥よ、説ふこと一遍せよ。您兄弟聽かん。

〔正末唱ふ〕

那裏取這般忠義の人英雄漢あらんや。他鼎を
舉げし時多敢、神力の相關する有り。

〔芊旋云ふ〕

哥哥よ、你兄弟想ひ來るに、秦國は文に百里奚あ
り、武に姬釐あり。可に怎生都て那の伍子胥に如
かずして、倒つて他に讓つて個の盟府となせしや。

〔正末唱ふ〕

〔鶻路枝〕他他他説的那秦姬輩
怎敢遮欄百里奚只瞪眼偷看
他向那鬪寶筵前頓劍搖環。

〔芊旋云〕

聞他當初在臨潼曾救姬光之
難。到今日投吳伐楚。可知道來。

〔正末唱〕

便休題吳姬光顛碎了溫涼玉
盞。他直着秦公子曲躬躬親送
出潼關。

〔云〕

令人。與我喚將申包胥來者。

〔卒子云〕

申包胥安在。

他他他。是那的秦の姫輩を誑して怎でか敢て遮
欄せしめん。百里奚は只眼を瞪つて偷み看る。
他は那の鬪寶^{*}筵前に向つて劍を頓き環を搖が
す。

〔芊旋云ふ〕

聞く他當初臨潼に在り、曾て姬光の難を救ふと。
今日に到り吳に投じ楚を伐つは知道る可きなり。

〔正末唱〕

便ち吳の姬光溫涼の玉盞^{*}を顛碎せるを題ふこ
と休れ。他直ちに秦の公子をして曲躬躬親し
く潼關より送り出ださしむ。

〔云ふ〕

令人、我が與に申包胥を喚び將ち來れよ。

〔卒子云ふ〕

申包胥安くに在りや。

〔外扮申包胥上、詩云〕

憶與伍員別時語。他要覆楚我復楚。回頭已隔數年餘。前事今皆棄如土。小官申包胥是也。官封上卿之職。方今春秋之世。首稱強楚。爲中國盟主者久矣。自伍子胥去後。始覺本國微弱。今日主公呼喚。不知有甚事。須索走一遭去。令人報復去道。有申包胥在於門首。

〔卒子報科。云〕

申包胥到。

〔申包胥見科。云〕

主公呼喚小官。有何事商議。

正末云。

今有吳國下將戰書來。拜孫武

〔外申包胥に扮し上り、詩に云ふ〕

伍員と別れし時の語を憶ふに、他は楚を覆さんと要し我は楚を復す。頭を回せば已に數年餘を隔つ。前事は今皆棄てて土の如し。小官は申包胥是れなり。官は上卿の職に封ぜらる。方今春秋の世、首に強楚を稱げ、中國の盟主と爲るもの久し。伍子胥去つてより後、始めて本國の微弱なるを覺ゆ。今日主公呼喚す。甚事有るを知らず。須索らく走くこと一遭し去くべし。令人、報復し去いて道へ、申包胥門首に在る有りと。

〔卒子報する科。云ふ〕

申包胥到れり。

〔申包胥見ゆる科。云ふ〕

主公小官を呼喚す。何事の商議がある。

〔正末云ふ〕

今吳國戰書を下し將ち來る有り。孫武を拜して軍

爲軍師。伍子胥爲元帥。伯嚭爲先鋒。領兵四十萬。與俺決戰。特請大夫計議。何以應之。

〔申包胥云〕

主公。論本國。止有司馬子期。子常二員。大將。子期智高。勇怯。子常有勇而無智。若吳國果用孫武爲軍師。子胥爲元帥。其鋒不可當也。

〔正末唱〕

〔寄生草〕從來道要得千軍易。偏求一將難。閒時故把忠臣慢。差時不聽忠臣諫。危時却要忠臣幹。誰當這借吳雪恨伍將軍。我則索求那扶周攝政姬公旦。

師と爲し、伍子胥を元帥と爲し、伯嚭を先鋒と爲し、兵四十萬を領して俺と決戦せしむ。特に大夫を請じて計議す。何を以て之に應ぜん。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、本國を論ずれば、止だ司馬子期子常二員の大將あるのみ。子期は智高きも勇怯、子常は勇あれども智無し。若し吳國果して孫武を用ひて軍師となし、子胥を元帥となさば、其の鋒當るべからざるなり。

〔正末唱ふ〕

從來道ふ千軍を要め得るは易く、偏へに一將を求むるは難しと。閒なる時は故に忠臣を漫にし、差ふ時は忠臣の諫を聽かず。危き時は却つて忠臣の幹すを要む。誰か這の吳を借り恨を雪ぐ伍將軍に當らんや。我は則索那の

〔申包胥云〕

主公。若子胥領兵前來。切不可與他交戰。你則深溝高壘。緊守城池。等小官直至西秦。借他兵來。那其間內外夾攻。方能取勝。

〔正末云〕

則怕秦昭公不肯借與。咱兵是好。

〔申包胥云〕

主公。想秦楚舊爲親戚之邦。必然肯借與。咱兵不必疑慮。

〔正末唱〕

〔么篇〕你須想着歸期急。休言他去路艱。止不過船臨古渡垂楊。

周を扶け政を攝する姫公旦を求めん。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、若し子胥兵を領し前み來らば、切に他と交戦す可からず。你則溝を深くし壘を高くして、緊く城池を守れ。小官直ちに西秦に至り、他の兵を借り來るを等ちて、那其間内外夾攻せば、方能て能く勝を取らん。

〔正末云ふ〕

則怕る秦の昭公肯て咱に兵を借與せざるを。怎生是好。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、想ふに秦楚は舊親戚の邦たり。必然肯て咱に兵を借與せん。必しも疑慮せざれ。

〔正末唱ふ〕

你須らく歸期の急を思ふべし。他の去路の艱を言ふ休れ。止船は古渡に臨む垂楊の岸、路

岸路經險道邛邛坂。小可如君
騎羸馬連雲棧。

〔申包胥云〕

小官既爲國解難。怎敢避前途
路之苦。

〔正末唱〕

你休辭山遙水遠路三千。我專
等你堅甲利刃那兵十萬。

〔云〕

大夫。你此一去。何日可回。

〔申包胥云〕

主公。我去只消一箇月便回也。

〔正末唱〕

〔金盞兒〕你道是一箇月借兵還。

は險道を經る邛邛の坂に過ぎず。君が羸馬に
騎つて雲棧に連なる如も小可らん。

〔申包胥云ふ〕

小官既に國の爲に難を解く。怎でか敢て途路の苦
を避けん。

〔正末唱ふ〕

你山遙に水遠く路三千なるを辭すること休
れ。我は專ら你的堅甲利刃の兵十萬を等た
ん。

〔云ふ〕

大夫よ、你此の一去、何れの日か回る可き。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、我去らば只一箇月を消ひて便ち回らん。

〔正末唱ふ〕

你は道ふ是れ一箇月にて兵を借りて還り、三

三十日報平安。但願你曉行晚宿無辭憚。休着我懸望的惡心煩。你只看風傳金柝遠。霜照鐵衣寒。

〔申包胥云〕

主公放心。小官若見了秦昭公。借的軍馬。即便回也。

〔正末唱〕

我可爲甚着賢人投敵國。也則怕那猛將過昭關。

〔申包胥云〕

那吳國孫武子深知兵法。又加以子胥之勇。俺國中無能勝之者。小官去後。只願主公堅壁不戰。以待秦兵。休聽一時之言。坐

第一折

十日にて平安を報せんと。但願はくは你曉に行き晩に宿して辭憚するなかれ。我をして懸望して惡心煩せしむる休れ。你只看よ風は金柝を傳へて遠く、霜は鐵衣を照して寒きを。

〔申包胥云ふ〕

主公よ放心せよ。小官若し秦の昭公に見えば、軍馬を借りて回らん。

〔正末唱ふ〕

我可に甚の爲に賢人をして敵國に投せしむるや。也則那の猛將の昭關を過ぐるを怕る。

〔申包胥云ふ〕

那の吳國の孫武子は深く兵法を知る。又加ふるに子胥の勇を以てす。俺が國中能く之れに勝つ者なし。小官去いて後は、只願はくは主公壁を堅くして戦はず、以て秦兵を待て。一時の言を聴き、坐

二三

失萬全之策。

〔正末唱〕

〔醉扶歸〕你道是伍盟府能雄悍。孫武子又非凡。只要我高壘深溝緊閉關。專等待秦邦返。我只怕你人疲意懶。早淹的過了程期限。

〔申包胥云〕

小官則今日辭了主公。便索長行也。

〔正末唱〕

〔賺煞〕你去後。我夜憂到明。明憂到晚。若是那秦公子將卿傲慢。你則索將火性兒全然都放坦。是必休便冒瀆容顏。那其間借

ながら萬全の策を失ふ休れ。

〔正末唱ふ〕

你^{なんぢ}は道^{みち}ふ是れ伍盟府能く雄悍、孫武子又凡に非ず。只我壘を高うし溝を深うし、緊^{きつ}く關を閉づるを要す。専ら秦邦より返るを等^{まち}待よと。我は只怕る你^{なんぢ}が人疲れ意懶く早くも程期限を淹^{ひく}的^{てき}過せんことを。

〔申包胥云ふ〕

小官は則ち今日主公を辭して、便^{すなは}ち索に長行すべし。

〔正末唱ふ〕

你^{なんぢ}去りし後は我夜憂へて明に到り、明に憂へて晩に到らん。若し是れ那^かの秦の公子卿をば傲慢にせば、你^{なんぢ}則索に火性兒をば全然^{すべ}都て放坦すべし。是れ必ず便^{すなは}ち容顏を冒瀆すること

的些金鼓旗旛將你那洗塵酒。
開懷兒做了送路盞。

〔申包胥云〕

主公。我這一去。若借得秦兵來。
時料那伍子胥恐怕前後受敵。
必解兵而歸矣。

〔正末云〕

只要借得秦兵呵。

〔唱〕

恁時節吳兵自還楚城無患。生
則怕你別時容易見時難。

〔下〕

〔申包胥云〕

二公子。你緊記者。若伍子胥領

第一折

休れ。那其間些の金鼓旗旛を借りて、
你的那の洗塵酒^{*}をば、懷兒^{（うちこけ）}を開いて送路の盞と做せ。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、我這の一去、若し秦兵を借り得來る時は、
料るに那の伍子胥前後に敵を受くるを恐怕れて、
必ず兵を解いて歸らん。

〔正末云ふ〕

只秦兵を借り得んことを要す。

〔唱ふ〕。

恁時節^{（かゝるとき）}は吳の兵自ら還りて、楚城は患無から
ん。生則怕^{（なまじらふ）}は你別る^{（あなたちが）}る時容易に、見る時難か
らん。

〔下る〕

〔申包胥云ふ〕

二公子よ、你緊く記せよ。若し伍子胥兵を領して

二五

兵來時。休聽費無忌。那短見。就要與他家廝殺。有悞大事。我即日往秦邦。借兵去也。

〔詩云〕

千里暗征塵。之秦借救軍。

〔芊旋詩云〕

家貧顯孝子。國難識忠臣。

〔同下〕

來の時、費無忌の那の短見を聽いて、就ち他と廝殺せんと要する休れ。大事を悞る有らん。我は即日秦邦に往き、兵を借りに去かん。

〔詩に云ふ〕

千里征塵暗し。秦に之き救軍を借る。

〔芊旋、詩に云ふ〕

家貧にして孝子顯れ、國難にして忠臣を識る。

〔同に下る〕

第二折

〔淨扮費無忌上。詩云〕

人有好的我偏害。人有歹的我倒愛。我的分毫不與人的。我會白廝賴。小官費無忌是也。現爲楚國上大夫之職。奉主公的將令。着老夫爲帥。與吳國伍子胥拒敵。我想來他的父兄。尙然被我殺了。這一箇逃走短命的。弟子孩兒。有甚本事。我正要與他要一耍。怕他怎麼。

〔詩云〕

老夫本領甚可誇。子胥本是我讐家。不愁巨斧當頭劈。也只結的碗口一箇大瘡疤。

第二折

〔淨費無忌に扮して上り、詩に云ふ〕

人好ある的は我偏へ害し、人歹ある的は我倒つて愛す。我的は分毫も人に與へず、人的は我白廝賴を會す。小官は費無忌是れなり。現に楚國の上大夫の職たり。主公の將令を奉じ、老夫をして帥となり、吳國の伍子胥と拒敵せしむ。我想ひ來れば彼の父兄すら尙然我に殺されたり。這一箇の逃走短命的の弟子孩兒は、甚の本事か有らん。我は他と要一耍せんと要す。他を怕れて怎麼。

〔詩に云ふ〕

老夫の本領甚だ誇るべし。子胥は本是れ我的の讐家。巨斧頭に當つて劈くを愁へず、也只碗口一個大瘡疤を結ばんのみ。

二七

〔下〕

〔伍子胥・孫武・伯嚭卒子上〕

〔伍子胥云〕

某伍子胥領兵伐楚、如今已到
郢城、大小三軍擺開陣勢、遠遠
的塵土起處、楚家軍馬敢待來也。

〔正末同辛旋・費無忌領卒子上〕

〔正末云〕

某乃楚昭公是也、大小三軍將
陣腳射住、我與二公子在將臺
之上、看費無忌與伍子胥決戰
去來。

〔唱〕

〔越調鬲鸛鶉〕他走樊城兀自紅
顏、過昭關早成皓首、只道他暮

〔下る〕

〔伍子胥・孫武・伯嚭卒子を領して上る〕

〔伍子胥云ふ〕

某は伍子胥、兵を領して楚を伐つ。如今已に郢城
に到る。大小の三軍陣勢を擺開せよ。遠遠の塵土
起る處、楚家の軍馬敢待來るならん。

〔正末・辛旋・費無忌と共に卒子を領して上る〕

〔正末云ふ〕

某は乃ち楚の昭公是れなり。大小の三軍陣脚を射
住せよ。我と二公子とは將臺の上に在つて、費無
忌と伍子胥の決戦去來するを看ん。

〔唱ふ〕

他樊城を走るとき兀自紅顏。昭關を過ぎて早
くも皓首と成る。只道ふ他暮景蕭蕭と。依還

景蕭蕭。依還的雄威趕趕。他本爲楚國縈心。權借這吳兵應手。現如今太宰嚭敢突前。孫武子爲合後。只待要投鞭兒截斷長江。探囊兒平吞了俺這夏口。

〔紫花兒序〕他他懷着那幾年的怨恨。倚着這蓋世的才名。來尋問俺往日的根由。我只見征塵不散殺氣如浮。颼颼四下裏寒風不住的吼。大剛來也則是冤讎深厚。落得這撲騰騰鞞鼓驚魂。明見見劍戟侵眸。

〔伍子胥云〕

兀那來將。莫非是費無忌麼。

〔費無忌云〕

第二折

的雄威趕趕たり。他かれは本楚國の爲に心に縈まふ。權に這の吳兵を借りて手に應こたず。現に如今太宰嚭敢て突前し、孫武子合後となる。只鞭兒を投じて長江を截斷し、囊兒を探るがごとく俺わが這の夏口を平吞せんと待要す。

他かれ他かれは那の幾年かの怨恨を懷き、這の蓋世の才名に倚り、來つて俺われに往日の根由いはねを尋問す。我は只見る征塵散せず殺氣浮かぶが如く、颼さう颼と四下裏に寒風の不住的吼なへゆるを。大剛來也則ち是れ冤讎深厚なり。落得はて這の撲騰騰とんとんたる鞞鼓魂を驚かし、明見見たる劍戟けんかくを侵す。

〔伍子胥云〕

兀那來將は、是れ費無忌に非ざる莫なきか。

〔費無忌云〕

二九

然也。來將何人。

〔伍子胥云〕

某乃伍子胥是也。父兄之讐。今日須報。你可早下馬來請死者。

〔費無忌云〕

咤。量你到的那裏。且與你鬪三百合要子。

〔做調陣子科〕〔正末唱〕

〔調笑令〕你每做的來不周。結下了父兄讐。抵多少不是冤家不聚頭。今日在殺場上面爭馳驟。費無忌你索擔憂。他只待摘了你心肝。標了你首。可兀的便肯干休。

然り、來將は何人ぞ。

〔伍子胥云ふ〕

某は乃ち伍子胥是れなり。父兄の讐今日須らく報すべし。你可に早々に馬を下り來つて死を請へよ。

〔無費忌云ふ〕

咤、量るに你那裏に到らん。且し你と三百合の要子を鬪はさん。

〔陣子を調ふるを做す科〕〔正末唱ふ〕

你每做し來つて周ます。父兄の讐を結下す。抵多少是れ冤家ならざれば頭を聚めす。今日殺場上面に在つて争つて馳驟す。費無忌よ、你索に憂を擔ふべし。他は只你的心肝を摘し、你的首を標せんと待す。可兀的便ち肯て干しく休めんや。

〔伍子胥云〕

出馬來。出馬來。

〔戰科〕〔正末唱〕

〔小桃紅〕只見他旗門開處躍驕驕。高叫道誰敢來和咱鬪。早着俺千軍萬馬都驚走急難收。兀的般威風不信心人間有。淹的呵拋下了戈矛。氲的呵遮漫了宇宙。莫不是劍氣上連牛。

〔費無忌云〕

你看這小畜生好無禮也。全然不省的有個前輩後輩。則你那伍奢老頭兒也還讓着我哩。

〔伍子胥云〕

第二折

〔伍子胥云ふ〕

馬を出し來れ、馬を出し來れ。

〔戰ふ科〕〔正末唱ふ〕

只見他^かの旗門開く處驕驕を躍らし、高く叫んで道ふ、誰か敢て來り咱と鬪ふと。早くも俺が千軍萬馬をして、都て驚き走つて急に收め難からしむ。兀的般の威風人間にあるを信せず。淹^{たちまろに*}的呵戈矛を抛下し、氲^{むつとで*}的呵宇宙に遮漫するは、是れ劍氣上つて牛に連ならざる莫きか。

〔費無忌云ふ〕

你看よ、這の小畜生好だ無禮なり。全然個の前輩後輩あるを省みず。則^{すなは}ち你那の伍奢老頭兒も也還我に譲れり。

〔伍子胥云ふ〕

三一

我今日不拏你這老匹夫、到屍
萬段替不收軍。

〔戰科 正末唱〕

〔金焦葉〕那一個錦征袍、窄窄的
把獅蠻款兜。這一個鳳翅盔、律
律的把紅纓亂丟。那一個點鋼
鎗支支的把黃幡狼掀、這一個
鐵胎弓、率率的把雕翎穩扣。

〔天淨紗〕俺只道他兩個都一般
狀貌搗搜、都一般武藝滑熟、管
殺的慘迷離神嚎鬼愁、可元來
半合兒不殺、早一個先納了輸
筈。

〔云〕

呀、費無忌却輸了也。

我今日你這的老匹夫を拏へ、屍を剉ること萬段に
せずんば、替つて軍を收めず。

〔戰ふ科〕〔正末唱ふ〕

那の一個は錦征袍、窄窄の獅蠻を款兜す。
這の一個は鳳翅盔、律律の紅纓を亂丟す。
那の一個は點鋼鎗、支支の黃幡を狼掀す。
這の一個は鐵胎弓、率率的雕翎を穩扣す。

俺は只道ふ、他兩個は都て一般の狀貌搗搜、
都て一般の武藝滑熟なり。殺して慘迷離神嚎
鬼愁を管す。可に元來半合兒にも殺らざる
に、早くも一個先づ輸筈を納れたり。

〔云ふ〕

呀、費無忌却つて輸けたり。

〔唱〕

〔禿厮兒〕俺只見馬吼處和人倒縮。鎗着處鮮血漂流。可不是空戴南冠。你個活楚囚。兩下裏不相投。休休。

〔費無忌云〕

我敵不過他。只是逃命的好。走走。

〔伍子胥云〕

你這老匹夫。走那裏去。

〔追科〕〔正末唱〕

〔聖藥王〕你你你非敵手強賣口。只待要戰爭酣處討廻頭。他他他怎放走。緊逼逐。早殺的俺人亡馬倒。積成丘。恰便似落葉盡。

〔唱ふ〕

俺は只見る馬吼ゆる處人と和に倒縮し、鎗着くる處鮮血漂流するを。可に空しく南冠を戴ける你個の活楚囚ならずや。兩下裏相投せず。休めん休めん*。

〔費無忌云ふ〕

我は他に敵不過、只是れ命を逃るるが好し。走走。

〔伍子胥云ふ〕

你這の老匹夫、那裏へ走れ去くぞ。

〔追ふ科〕〔正末唱ふ〕

你你你敵手に非ざるに強ひて賣口し、只戰爭酣なる處廻頭を討めんと待要す。他他他怎でか放走せん。緊く逼逐す。早くも殺して俺が人亡び馬倒れ積んで丘となる。恰も便ち落

歸秋。

葉盡く秋に歸するに似たり。

〔伍子胥云〕

〔伍子胥云ふ〕

早將那老匹夫拏倒了也。大小三軍就此殺向前去。休教走了楚王者。

早くも那の老匹夫を拏へ倒せり。大小の三軍此に就いて殺し前に向つて去け。楚王を走れしむる休れ。

〔下〕

〔下る〕

〔辛旋云〕

〔辛旋云ふ〕

哥哥。俺家兵大敗了。我保着你走了罷。

哥哥よ、俺家の兵大敗せり。我は你を保つて走れん。

〔正末唱〕

〔正末唱ふ〕

〔收尾〕眼睜睜見死可也無人救。索把這潑殘生告天保佑。則被那借吳兵的伍相逞盡十分強。

眼睜睜死を見るも可也人の救ふなし。索に這の潑殘生をば天に保佑を告ぐべし。則那の吳兵を借るの伍相に十分の強を逞盡せらる。

〔辛旋云〕

〔辛旋云ふ〕

怎得這申包胥救兵到來。可也

怎でか這の申包胥の救兵の到來するを得ば可也好

好也。

〔正末唱〕

遙望俺復楚國的包胥。且耐着
一時守。

〔同下〕

也。

〔正末唱〕

遙かに俺が楚國を復するの包胥を望み、
且く一時の守を耐へん。

〔同に下る〕

第三折

龍神領鬼力上。詩云」

長江浩浩顯威靈。風浪孤舟誰敢行。直待險時纔救護。方知暗裏有神明。吾乃漢江龍神是也。掌管着萬里長江。有楚昭公弟兄妻子四口兒。明日到此。駕着漁船一隻。過江逃難。明日正是四耗九醜之日。合起大風。眼見得都該淹死了的。吾神奉上帝勅令。但有下水者救護至岸。如今在此等候。這早晚他敢待來也。

丑扮稍公上。唱歌云」

月落烏啼霜滿天。江楓漁火對愁眠。也弗只是我裏稍公稍婆

〔龍神鬼力を領して上り、詩に云ふ〕

長江浩浩威靈を顯はす。風浪孤舟誰か敢て行らんや。直險なる時を待つて纔めて救護す。方に暗裏に神明あることを知る。吾は乃ち漢江の龍神是なり。萬里の長江を掌管す。楚の昭公の弟兄妻子四口兒あり、明日此に到り、漁船一隻に駕し、江を過ぎて難を逃る。明日は正に是れ四耗九醜^{*}の日、合に大風起るべし。眼見得都て該に淹死すべし。吾神上帝の勅令を奉じて、但水に下る者あらば、救護して岸に到らしめん。如今此に在つて等候す。這早晚他敢待來らん。

〔丑稍公に扮して上り、唱歌に云ふ〕

月落烏啼いて霜天に滿つ。江楓の漁火愁眠に對す。也只是れ我が裏は稍公稍婆の兩個のみならず

兩個。倒有五男二女團圓。一個尿出子六個弗得眠。七個一齊尿出子艙板底下好撐船。一撐撐到姑蘇城下寒山寺。夜半鐘聲到客船。自家是個稍公。每日在這江邊捕魚爲生。今日風平浪靜。撐着這船。慢慢的打魚去來。

〔正末同芊旋且兒俵兒慌上〕正末云

兄弟也。走走走。
唱

〔中呂粉蝶兒〕則聽的兵起東吳。可撲撲膽驚心懼。早則不三戰殺入王都。說得我亂慌慌忙切

倒つて五男二女の團圓あり。一個尿出づれば子ち六個眠るを得ず。七個一齊に尿出づれば子ち艙板の底下、船を撐ぐに好し。一撐撐姑蘇城下の寒山寺に到れば、夜半の鐘聲客船に到る。自家は是れ個の稍公なり。毎日這の江邊に在つて魚を捕へて生を爲す。今日風平かに波靜かなり。這の船を撐いで慢慢的魚を打りに去かん。

〔正末、芊旋・且兒・俵兒と共に慌てて上る〕

〔正末云ふ〕

兄弟よ、走走走。

〔唱ふ〕

則聽く兵は東吳より起るを。可撲撲と膽は驚き心は懼る。早くも則ち三戰せざるに王都に殺入し、我を説して亂慌慌忙切活路を成さ

却不成活路偏生的望眼模糊。
悄不見那西秦遠來相助。

〔且兒云〕

大王、後面吳兵追趕的至近、你
你顧俺子母每、你和小叔叔、則
逃您的性命咱。

〔正末唱〕

〔醉春風〕則俺這妻子似瑟和琴
弟兄如手共足。

〔羊旋云〕

俺怎肯撇下了嫂嫂姪兒也。

〔正末唱〕

俺一家四口兒盼程途、俺端的
苦苦幾能勾罷息干戈、還歸宮
闕、撫安黎庶。

ざらしむ。偏生的望眼模糊、悄として那の西
秦より遠く來つて相助くるを見ず。

〔且兒云ふ〕

大王よ、後面に吳兵追趕して至つて近し。你俺が
子母每を顧みる休れ。你は小叔叔と則您的性命を
逃れよ。

〔正末唱ふ〕

則俺が這の妻子は瑟と琴とに似たり。弟兄は
手と足との如し。

〔羊旋云ふ〕

俺怎でか肯て嫂嫂姪兒を撇下んや。

〔正末唱ふ〕

俺が一家四口兒程途を盼む。俺端的苦苦たり。
幾か能勾干戈を罷息して、宮闕に還歸し、黎
庶を撫安せん。

〔芊旋云〕

哥哥想俺申包胥與那伍子胥。
元是故友。兩個會打賭賽來。一
個要覆楚。一個要復楚。若俺申
包胥借得兵來。必然退了吳兵。
重安楚國也。

〔正末唱〕

〔迎仙客〕一個報冤讐。稱了子胥。
一個打賭賽去了包胥。何處也。
濟困扶危。重復楚。慌速速的強
逃生。急煎煎的甘受苦。

〔內發喊科〕〔正末唱〕

腦背後鬧炒炒的起軍卒。

〔芊旋云〕

哥哥兀的不是追兵漸近了也。

第三折

〔芊旋云〕

哥哥よ、想ふに俺が申包胥と那の伍子胥と元是れ
故友なり。兩個會て賭賽を打し來る。一個は楚を
覆さんと要し、一個は楚を復さんと要す。若し俺
が申包胥、兵を借り得來らば必然吳兵を退け重ね
て楚國を安ぜん。

〔正末唱〕

一個は冤讐を報じて子胥に稱ふ。一個は賭賽
を打して包胥を去る。何處ぞや、困を濟ひ危
を扶け重ねて楚を復さんは。慌慌速速の強ひ
て生を逃れ、急煎煎の甘んじて苦を受く。

〔内にて喊を發する科〕〔正末唱〕

腦背後に鬧炒炒と軍卒起る。

〔芊旋云〕

哥哥よ、兀的是れ追兵漸く近づくならずや。前面

三九

前面又阻着大江。江水泛漲。無船可渡。怎生是好。

正末唱

眼前面翻滾滾野水無人渡

〔芊旋云〕

哥哥。兀的江岸邊。有一隻漁船。我是喚他一聲咱。兀那稍公。你快將船撐過來。我有的賞你。

〔稍公云〕

來也來也。

〔芊旋云〕

兀那稍公。將你這船渡俺四口兒過江去。到了岸上。我還你的船錢。可也不少。

〔稍公云〕

客官。則是船小渡不的。

は又大江に阻まる。江水泛漲して船の渡る可きなし。怎生是好。

〔正末唱ふ〕

眼前面翻滾滾たる野水人の渡る無し。

〔芊旋云ふ〕

哥哥よ、兀の江岸の邊に一隻の漁船あり。我は他を喚ぶこと一聲せん。兀那稍公、你快く船をば撐ぎ來れ。我你を賞する有らん。

〔稍公云ふ〕

來也來也。

〔芊旋云ふ〕

兀那稍公よ、你の這の船を將つて俺が四口兒を渡して江を過ぎ去け。岸上に到らば、我你的船錢を還さん。可也少なからじ。

〔稍公云ふ〕

客官よ、則是れ船小にして渡不的。

〔正末唱〕

〔紅繡鞋〕不得已。央及你個漁父。

〔稍公云〕

肯載不肯載。也則由的我。

〔正末唱〕

似這般粧着。勢待要何如。我與你也是近。隣隣庄共鄉閭。

〔稍公云〕

怕不是鄉閭。大家要看看個風水。實是船小載不起這幾個人。

〔正末唱〕

你道是船兒小難裝載。則要你量兒大救俺家屬。早早的過長江無間阻。

〔莘旋云〕

第三折

〔正末唱ふ〕

已むを得ずして你個の漁父に央及す。

〔稍公云ふ〕

肯て載すると肯て載せざるとは也則我に由る。

〔正末唱ふ〕

似這般やうどとく勢をづく粧つて何如せんと待要す。我となんぢ你とはまた也是れ近隣隣庄郷閭を共にす。

〔稍公云ふ〕

怕らくは郷閭の大家、個の風水を看んと要するな
らずや。實に是れ船小にして這幾個人を載不起。

〔正末唱ふ〕

你なんぢは道ふ、船兒小にして裝載し難しと。則你
の量兒大*にして俺が家屬を救ひ、早早はややくの長江
を過ぎて間阻なきを要す。

〔莘旋云ふ〕

兀那稍公。你認不得。俺哥哥就是楚昭公。被吳兵追趕至近。你若肯渡俺過去。久後平定了楚國。那其間將你官封三品。賞賜千金。不强似你在此捕魚爲活。你是尋思咱。

〔稍公云〕

你可不早說。既是楚昭公。我須是管下的百姓。便是船小。也只得載將過去。上船上船。

〔羊旋云〕

哥哥請上船去。

〔衆上船科〕〔稍公云〕

仔細船兒小。可都坐定了。你看借遠的江面。幾時擺得到那岸

兀那稍公よ、你認め得ず。俺が哥哥は、就ち楚の昭公なり。吳兵に追趕せられて至つて近し、你若し肯て俺を渡し過ぎ去かしめば、久しくして後楚國を平定せる那其間は、你を官は三品に封じ、賞は千金を賜らん。你此に在つて魚を捕へて活を爲すより強さらずや。你是れ尋思せよ。

〔稍公云ふ〕

你可に早く説はざるや。既に是れ楚の昭公ならば我は須らく管下の百姓なるべし。便ち是れ船小なるも、也只得載せ將ち過ぎ去かん。船上れ船上れ。

〔羊旋云ふ〕

哥哥よ、請ふ船上りに去け。

〔衆船上る科〕〔稍公云ふ〕

仔細にせよ。船兒小なり。可に都て坐定せよ。你看よ、借く遠き江面、幾時か那の岸邊に擺得到き

邊。纔放心也。

〔正末唱〕

〔石榴花〕俺只見雲濤雪浪接天隅。這的是海闊洞庭湖。

〔稍公云〕

我說不載不載。您強要上這船來。還不開的半里。早風起了。你看潑天也似的大浪。可不苦也。

〔正末唱〕

你看這大驚小怪潑村夫。那裏便叫苦。謊的俺魄散魂無。

〔稍公云〕

風浪越大了。船兒又小。滄上水來了也。不着親的快請一個下水去。纔救的一船人性命。

第三折

て纔に放心せんや。

〔正末唱ふ〕

俺は只見る雲濤雪浪の天隅に接するを。這のは是れ海闊の洞庭湖なり。

〔稍公云ふ〕

我は載せず載せずと説ひしに、您強ひて這の船上り來らんと要す。還半里も開かざるに早くも風起れり。你看よ潑天也似大浪可に苦しからずや。

〔正末唱ふ〕

你看よ這の大驚小怪の潑村夫、那裏に便ち苦と叫ぶ。俺を誑して魄散じ魂無からしむ。

〔稍公云ふ〕

風浪、越大なり。船兒又小。水を滄上ひ來れり。不着親的、快く請ふ一個を水に下り去かしめば纔に一船の人の生命を救はん。

四三

〔家做悲科〕正末唱〕

他道是不關親者當身故俺四口兒那一個爲疎則被這一家老小同奔赴。

〔帶云〕

稍公你小心在意者。

〔唱〕

到今日只仗的你做護身符。

〔芊旋云〕

哥哥這風浪越大了。船隻較小，不堪重載，似此怎了也。

〔正末唱〕

〔鬬鷗鷁〕兄弟是同氣連枝。妻子是多情伴侶。

〔芊旋云〕

〔家悲しむを做す科〕〔正末唱ふ〕

他道ふ是れ親に關せざる者當に身故すべしと。俺四口兒那一個か疎と爲さん。則此の一家の老小同に奔赴せらる。

〔帶して云ふ〕

稍公你小心意に在れよ。

〔唱ふ〕

今日に到つては只你に仗り護身の符と做す。

〔芊旋云ふ〕

哥哥よ、這の風浪越大なり。船隻較小にして重載に堪へず。此の似きは怎にせん。

〔正末唱ふ〕

兄弟は是れ同氣の連枝*、妻子は是れ多情の伴侶なり。

〔芊旋云ふ〕

哥哥。則保你的前程。休顧戀你兄弟罷。

〔正末唱〕

眼睜睜弟覷着兄。

〔旦係做悲科〕〔正末唱〕

悲切切子隨着母。好教我穰穰勞勞意不舒。

〔稍公云〕

不着一個下水呵。再一會兒。連船都沒了也。

〔正末唱〕

他道是霎時間都命卒。

〔羊旋云〕

哥哥好覷當嫂嫂姪兒。您兄弟拜別了哥哥。下水去也。

第三折

哥哥よ、則您的前程を保ち、你兄弟を顧戀する休れ。

〔正末唱ふ〕

眼睜睜として弟は兄を覷る。

〔旦係悲しむを做す科〕〔正末唱ふ〕

悲切切として子は母に隨ふ。好に我をして穰穰勞勞意舒びざらしむ。

〔稍公云ふ〕

一個をして水に下らしめずんば、再一會兒船まで都て沒せん。

〔正末唱ふ〕

他は道ふ是れ霎時間にして都て命卒ると。

〔羊旋云〕

哥哥よ、好く嫂嫂姪兒を觀當せよ。您兄弟は哥哥に拜別して水に下り去かん。

四五

〔正末云〕

兄弟不爭你下水呵。

〔唱〕

着誰人買馬招軍。重與俺揚威
耀武。

〔稍公云〕

風狂浪猛。看看的滄上水來了。
快着一個下水去。

〔正末唱〕

〔普天樂〕俺只見掩掩潑潑畫船
兒歪。囊囊突突稍公絮。

〔稍公云〕

這風把船掀過來。滄上水了。還
不着個下水去。敢多要死哩。

〔正末唱〕

〔正末云〕

兄弟よ、不爭你水に下らば、

〔唱〕

誰人をして馬を買ひ軍を招かしめ、重ねて俺
が與に威を揚げ武を耀かさん。

〔稍公云〕

風狂ひ浪猛り、看看の水を滄上ひ來れり。快く一
個をして水に下り去かしめよ。

〔正末唱〕

俺は只見る掩掩潑潑と畫船兒歪み、囊囊突突
と稍公絮するを。

〔稍公云〕

這の風は船をば掀過來たり、水を滄上へり。還一
個をして水に下らしめずんば敢多死せんと要す。

〔正末唱〕

便直恁般險惡。待不的須臾。

〔旦兒悲科。云〕

兒也。則被你痛殺我也。

〔正末唱〕

兒悲啼爲母離。娘痛哭拋兒去。
哎。你個掌命司的稍公。可便休
催促。百忙裏割不斷他子母每
腸肚。但保全了孩兒的身軀。怎
顧得夫人的性命。

〔羊旋云〕

哥哥。您兄弟下水去也。

〔正末云〕

兄弟。你住者。

〔唱〕

緊揪住俺這兄弟的衣服。

第三折

便ち直恁般險惡にして須臾を待ちたす。

〔旦兒悲しむ科。云ふ〕

兒よ、則ち我を痛殺せらる。

〔正末唱ふ〕

兒の悲啼するは母の離るるが爲なり。娘は兒
を抛つて去るを痛哭す。哎、你、你個の命司を
掌る稍公、可に便ち催促する休れ。百忙裏に
も他の子母每の腸肚を割不斷。但孩兒の身軀
を保全せば、怎で夫人の性命を顧み得んや。

〔羊旋云ふ〕

哥哥よ、您兄弟水に下り去かん。

〔正末云ふ〕

兄弟よ、你住て。

〔唱ふ〕

緊く俺が這の兄弟の衣服を揪住す。

四七

〔芊旋云〕

哥哥稍公道疎者下船。您兄弟想來嫂嫂姪兒與哥哥正是着親的。惟您兄弟是個疎慢些的。理當下水。

〔正末扯芊旋科云〕

兄弟嗒兩個須親。還有不親的哩。

〔旦兒云〕

孩兒眼見的我顧不的你也。大王這兄弟同胞共乳一體而分。妾身乃是別姓不親。理當下水。

〔正末云〕

夫人你說的是。

〔唱〕

〔芊旋云ふ〕

哥哥よ、稍公道ふ疎なる者船を下れと。您兄弟想ひ來るに、嫂嫂姪兒と哥哥とは正しく是れ着親なる的なり。惟您兄弟は是れ個の些しく疎慢なる的なり。理當に水に下るべし。

〔正末芊旋を扯く科、云ふ〕

兄弟よ、嗒兩個は須らく親なるべし、還親ならざる的あり。

〔旦兒云ふ〕

孩兒よ、眼見得我は你を顧不得。大王よ、道の兄弟は同胞共乳、一體にして分る。妾身は乃ち別姓にして親ならず。理當に水に下るべし。

〔正末云ふ〕

夫人よ、你說ふことはなり。

〔唱ふ〕

〔上小樓〕我着你名標萬古。那裏也相隨百步。你待要留了嬰孩。替了親叔。救了兒夫。你道不共族稍似疎。何妨的從新革故。

〔旦兒云〕

大王。我囑付你咱。好生看顧我這孩兒。我下水去也。

〔詩云〕

半生空記百年恩。苦爲波濤沒漢津。眼看兒夫難共守。生拋幼子若無親。手足自今同一處。姻緣到底屬何人。幽魂定不隨風去。飛上青山更化身。

〔下〕

我なれどはなれど你なれどをして名を萬古に標せしめん。那裏也いかでか相隨あひまふ百歩あひまならん。你嬰孩ななこを留め、親叔おやぢに替り、兒夫こゝろを救はんと待要まちす。你なれどは道みちふ族いを共にせず、稍疎やうそなるに似たりと。何ぞ新に従したがひ故こを革かむるを妨げんや。

〔旦兒云ふ〕

大王よ、我われに囑付おまへす。好生よく我が這こゝの孩兒こゝろを看顧かんぐせんことを。我水みづに下り去さかん。

〔詩に云ふ〕

半生空しく記す百年の恩ねん。苦くるしみに波濤はたうの爲に漢津かんしんに没めす。眼めに看る兒夫こゝろ共に守り難し、生なまきながら幼子こゝろを抛なつて親無おやきが若わかし、手足てあし今いま自り同一の處、姻緣いんげん到底何人に屬せん、幽魂おうれん定めて風かぜに隨したがつて去らず、青山に飛び上つて更に化身こゝろせん。

〔下る〕

〔龍神云〕

鬼力。將夫人救上岸者。

〔鬼力云〕

理會的。

〔芊旋哭科云〕

可惜了嫂嫂也。

〔正末唱〕

久以後。史書中又新添個節婦。

〔稍公云〕

船便輕了些。爭奈風浪越越的大了。再請一個下水去。還有救哩。

〔芊旋云〕

哥哥。風浪越大。可怎了也。稍公道再請一個下水。還有可救。您兄弟則索辭別了哥哥。下水去。

〔龍神云〕

鬼力。夫人をば救つて岸に上げよ。

〔鬼力云〕

理會的。

〔芊旋哭く科云〕

惜しむ可し、嫂嫂よ。

〔正末唱〕

久しき以後、史書中に又新に個の節婦を添へん。

〔稍公云〕

船便ち些しく輕きも、爭奈せん風浪越越の大なり。再び請ふ一個水に下り去かは還救ふ有らん。

〔芊旋云〕

哥哥よ、風浪越大なり、可に怎にせんや。稍公は道ふ、再び請ふ一個水に下らば還救ふ可き有らんと。您兄弟則索に哥哥に辭別し水に下り去くべ

也。

〔正末云〕

兄弟、喲兩個須親。還有不親的來。

〔徠兒云〕

爹爹、眼見的不親的是您孩兒也。

〔正末唱〕

〔么篇〕兒也喲兩個是親骨肉。

〔莘旋云〕

哥哥、留着姪兒、休絕了俺楚家後代。你則放了手。您兄弟情願下水去。

〔正末唱〕

兄弟也我和你是一父母。

第三折

し。

〔正末云ふ〕

兄弟よ、喲兩個は須らく親なるべし。還親ならざるあり。

〔徠兒云ふ〕

爹爹よ、眼見的親ならざるは是れ您孩兒なり。

〔正末唱ふ〕

兒よ、喲兩個は是れ親の骨肉なり。

〔莘旋云ふ〕

哥哥よ、姪兒を留めて、俺が楚家の後代を絶つ休れ。你則手を放せ。您兄弟情願はくは水に下り去かん。

〔正末唱ふ〕

兄弟よ、我とは是れ一父母なり。

五一

〔倅兒云〕

爹爹、你則好看覷叔叔、您孩兒
辭別了、下水去也。

〔正末云〕

兒也、你那叔父呵。

〔唱〕

他和我着疼、我和他着熱、你比
他還疎。

〔倅兒下水科、云〕

爹爹、我下水去也。

〔詩云〕

母親一命喪波瀾、兒便投江也
不難、地下相逢說前事、知他何
日更探環。

〔龍神云〕

鬼力、與我將這小公子救了者。

〔倅兒云ふ〕

爹爹よ、あなたは則ただ好く叔叔を看み覷せよ。您孩兒辭別
して水に下り去かん。

〔正末云ふ〕

兒よ、你的那の叔父は、

〔唱ふ〕

他かれと我われとは疼いたを着きけ、我われと他かれとは熱あつを着きく。
あなたは他かれに比ひすれば還疎なり。

〔倅兒水に下る科、云ふ〕

爹爹よ、我水に下り去かん。

〔詩に云ふ〕

母親一命波瀾に喪ふ、兒は便ち江に投ずるも也難
からず、地下に相逢ふて前事を説かば、他何れの
日か更に環たまごを探るを知らんや。

〔龍神云ふ〕

鬼力、我が與ともに這この小公子をば救へよ。

〔鬼力云〕

理會的。

〔正末唱〕

兒也但願你去水府。往地獄好尋娘去。

〔莘旋云〕

哥哥。你着姪兒下船。可怎忍也。

〔正末唱〕

又何妨死的來不着墳墓。

〔莘旋云〕

可惜。嫂嫂姪兒剛下水去。這風浪就寧息了。雖然安穩無事。使我不勝傷感。

〔正末唱〕

第三折

〔鬼力云〕

理會的。

〔正末唱〕

兒よ、但願ふ你水府に去き地獄に往かば、好し娘を尋ね去け。

〔莘旋云〕

哥哥よ、你姪兒をして船を下らしむ。可怎忍びんや。

〔正末唱〕

又何ぞ死し來つて墳墓に着かざるを妨げん。

〔莘旋云〕

惜しむ可し、嫂嫂姪兒剛に水に下り去くや、この風浪就ち寧息せり。安穩無事なりと雖然も、我をして傷感に勝へざらしむ。

〔正末唱〕

五三

〔滿庭芳〕哀哉子母。如今希有。從古應無。又不是進膠舟。那日昭王渡。怎生的也共爲魚。兒也你捨性命投江伴母。妻也你可便守貞烈出嫁從夫。似這等難相顧。總只是皇天喪楚。教你去龍領下探明珠。

〔稍公云〕

渡過江了。攬下脚踏板。請登岸。

〔做上岸科〕〔竿旋云〕

解這金魚下來。賞了稍公。後面有人追來時。若非本國之人。你是必休渡他過江也。

哀しい哉子母、如今有ること希に、古從り應に無かるべし。又是れ膠舟を進めて那の日に昭王の渡るならず。怎生的也共に魚と爲らん。兒よ、你は生命を捨てて江に投じ母に伴ふ。妻よ、你可に便ち貞烈を守り出で嫁して夫に従ふ。似這等に相顧み難きは、總て只是れ皇天楚を喪すなり。你をして龍の領下に去いて明珠を探らしむ。

〔稍公云ふ〕

江を渡過せり。脚踏板を攬下せり。請ふ岸に登れ。

〔岸に上るを做す科〕〔竿旋云ふ〕

這の金魚を解き下し來りて稍公に賞す。後面に人の追ひ來る有る時、若し本國の人に非ずんば、你是れ必ず他を渡して江を過ぎしむる休れ。

〔稍公云〕

理會的等您回來時。我另打一隻大海船。在此等候。

〔下〕〔正末云〕

謝天地。上的岸來。兄弟也。這兩條路您自往那一條路去。

〔辛旋云〕

哥哥。現今嫂嫂姪兒都無了也。則有的您兄弟一人相隨。可怎生又教我那一條路去。不知哥哥主着何意。

〔正末唱〕

兄弟你那裏知道。

〔唱〕

〔耍孩兒〕本待要相隨相從相將

第三折

〔稍公云〕

理會せり。您的回り來る時を待ち、我別に一隻の大船を打ち、此に在つて等候たん。

〔下〕〔正末云〕

天地に謝す、岸に上り來れり。兄弟よ、這の兩條の路、您自ら那の一條の路へ去け。

〔辛旋云〕

哥哥よ、現今嫂嫂姪兒都て無し。則您兄弟一人の相隨ふあるのみ。可怎生又我をして、那の一條の路を去かしむるや。哥哥何の意を主とするかを知らず。

〔正末唱〕

兄弟よ、你那裏知道。

〔唱〕

本相隨ひ相從ひ相將ひ去かんと待要す。也則

五五

去也。則爲我膽兒自虛。我只見前山掩映蒼蒼樹。那其間必有埋伏。小路行怕撞着孫都統。大路走須防他伍子胥。兄弟誰防護。可不是免魚鯨纔離江上。逢豺虎又斷送山谷。

〔羊旋云〕

既然這等。您兄弟則往這小路。上抄出。大路相會。且辭別了哥哥去也。哥哥受您兄弟一拜。只願哥哥穩登前路。無驚無恐。

〔正末唱〕

〔二煞〕兄弟也。喈相逢時有限期。

我が膽兒自ら虚なるが爲に、我は只見る前山蒼蒼の樹に掩映するを。那其間必ず埋伏有らん。小路を行けば孫都統に撞ふを怕る。大路を走れば須らく他の伍子胥を防ぐべし。兄弟と誰か防護せん。可に是れ魚鯨を免れて纔に江上を離れしに、豺虎に逢ふて又山谷に斷送せらるるならずや。

〔羊旋云ふ〕

既然に這等ならば、您兄弟は則ち這の小路上より抄出し、大路にて相會せん。且し哥哥に辭別し去かん。哥哥よ、您兄弟の一拜を受けよ。只願はくは哥哥穩に前路に登り、驚くなく恐るるならんことを。

〔正末唱ふ〕

兄弟よ、喈相逢ふ時は限り有るの期、別離す

別離了無限苦。

〔正末走科〕〔辛旋追上云〕

哥哥。您兄弟再送哥哥幾步。

〔正末唱〕

兩下裏欲去也頻回觀。好教我
痛煞煞提着膽向刀尖過。倒不
如悄促促低着頭在劍下誅。兄
弟也哭一聲行一步。俺兄弟情
氣吁成雲霧。他子母恨淚滴滿
江湖。

〔辛旋云〕

哥哥。但若打聽的救兵來時便
當重還楚國。再整江山。休便挫
折了志氣者。

第三折

るは限りなきの苦なり。

〔正末走科〕〔辛旋追ひ上り云ふ〕

哥哥よ、您兄弟再び哥哥を送ること幾歩かせん。

〔正末唱ふ〕

兩下裏去かんと欲して也頻りに回觀す。好た
我をして痛煞煞、膽を提し、刀尖に向つて過
さしむるは、倒つて悄促促頭を低れ、劍下に
在つて誅せらるゝに如かず。兄弟も也哭くこ
と一聲行くこと一步なり。俺が兄弟の情は氣
吁して雲霧と成り、他子母の恨は涙滴つて江
湖に滿つ。

〔辛旋云ふ〕

哥哥よ、但若し救兵來るを打聽せる時は、便ち當
に重ねて楚國に還り、再び江山を整ふべし。便ち
志氣を挫折する休れ。

五七

〔正末唱〕

〔煞尾〕俺如今一程程逐去途。一心心懷故土。大都來是一興一敗天之數。但不知肯分的秦兵幾時到得楚。

〔下〕〔羊旋云〕

哥哥去了也。我往這小路兒去罷。

〔龍神引鬼力上云〕

那賢婦孝子都救了。吾神不敢久停久住。回上帝話去來。

〔詩云〕

漢水東連揚子江。幾多舟楫此中亡。凡事勤人休碌碌。舉頭三尺有龍王。

〔下〕

〔正末唱〕

俺如今一程程去途を逐ひ、一心心故土を懷ふ。大都來はれ一興一敗は天の數なり。但知らず肯分の秦兵幾時か楚に到り得るを。

〔下る〕〔羊旋云ふ〕

哥哥去けり。我は此の小路兒へ去かばや。

〔龍神鬼力を引いて上り、云ふ〕

那の賢婦孝子都て救へり。吾神は敢て久しく停まり久しく住まらず。上帝の話を回し去かん。

〔詩に云ふ〕

漢水は東揚子江に連る、幾多の船楫此の中に亡ぶ、凡そ事は人に勤む碌碌たる休れ。頭を舉ぐれば三尺龍王有り。

〔下る〕

第四折

〔外扮秦昭公領卒子上。詩云〕
輕分一旅出函關。列國會無匹
馬還自古秦中多紫氣。爭教不
想佔江山。某乃秦昭公是也。昔
年我父穆公因與楚結親。世爲
隣好。近因吳國有一口寶劍。飛
入楚國。那吳王屢次索劍。楚王
只不肯還。以此惹動刀兵。幾至
滅國。有楚大夫申包胥。前來借
兵求救。某堅意不允。不意包胥
在驛亭中。依牆而哭。七晝夜不
絕。遂將郵亭哭倒。我想此人真
烈士也。我如今要借兵與他。未
曾與百里奚商議。令人與我喚

〔外秦の昭公に扮し卒子を領して上り、詩に云ふ〕
輕く一旅を分ちて函關を出づれば、列國會て匹馬
の還る無し。古自り秦中は紫氣多し、爭江山を佔
むるを想はざらしめん。某は乃ち秦の昭公是れなり。
昔年我が父穆公楚と親を結ぶに因つて、世々
隣好を爲す。近ごろ吳國に一口の寶劍あり、飛んで
楚國に入る。那の吳王屢次劍を索む。楚王只肯て
還さざるに因つて、此を以て刀兵を惹動して、幾ん
ど國を滅するに至る。楚の大夫申包胥あり、前
來つて兵を借り救ひを求む。某意を固くして允さ
ず。意はざりき、包胥は驛亭中に在つて、牆に依
つて哭し、七晝夜絶えず、遂に郵亭をば哭倒せん
とは。我想ふに此の人は眞の烈士なり。我如今兵
を借して他に與へんと要す。未だ會て百里奚と商

將百里奚來者。

〔卒子云〕

百里奚大夫安在。

〔外扮百里奚上。詩云〕

先事虞君後佐齊。還因陪嫁入秦西。曾向養牲家自賣。人號羊皮百里奚。老夫乃百里奚是也。有秦王呼喚。須索走一遭去。令人報復去道。有百里奚來了也。

〔卒子報科。云〕

百里奚大夫到。

〔百里奚做見科。云〕

主公呼喚小官。有甚事來。

〔秦昭公云〕

大夫。因爲申包胥借兵一事。特

議せず。令人、我が與に百里奚を喚び將ち來れ。

〔卒子云ふ〕

百里奚大夫安くに在りや。

〔外百里奚に扮して上り、詩に云ふ〕

先に虞君に事へ後に齊を佐く、還嫁に陪するに由つて秦西に入る、曾て養牲の家に向つて自ら賣り、人は羊皮の百里奚と號す。老夫は乃ち百里奚是れなり。秦王呼喚する有り。須索らく走くこと一遭し去くべし。令人、報復し去いて道へ、百里奚來れるありと。

〔卒子報する科。云ふ〕

百里奚大夫到れり。

〔百里奚見ゆるを做す科。云ふ〕

主公小官を呼喚す、甚事の有るや。

〔秦の昭公云ふ〕

大夫よ、申包胥兵を借る一事の因爲に、特に你を

請你來商議。還是借的是。不借的是。

〔百里奚云〕

想伍子胥在於臨渾會上。對着十七國諸侯比試。文過小官。武勝姬羣。此段冤讐未曾相報。今有申包胥來借兵。我想子胥深入敵境。兵老將驕。可不戰而破。所謂取威定霸。在此一舉。主公若不借兵與他。可不自失了。這一個機會。

〔秦昭公云〕

既然如此。令人。與我請將申包胥來者。

〔卒子云〕

理會的。

第四折

請^{こころ}じ來つて商議す。還是^{なほ}れ借^かす的^{こと}なるか、借^かさざる的^{こと}なるか。

〔百里奚云ふ〕

想ふに伍子胥は臨渾會上に在つて十七國の諸侯に對して比試せしに、文は小官に過ぎ、武は姬羣に勝る。此の段の冤讐未だ曾て相報ぜず。今申包胥來りて兵を借る有り。我想ふに子胥深く敵境に入り、兵老ひ將驕る。戰はずして破る可し。所謂威を取りて霸を定むるは此の一舉に在り。主公若し兵を借^かして他に與へずんば、可^{もと}に這個機會を自^みら失せざらんや。

〔秦の昭公云ふ〕

既然^すに此の如くんば、令人、我が與^{とも}に申包胥を請^{しやう}じ將^{しやう}ち來れ。

〔卒子云ふ〕

理會的^{ふりてまうこと}。

〔申包胥上。詩云〕

千里而來借救兵。秦王何事不相應。可憐七日號幾絕。血淚斑斑在驛亭。小官申包胥。到於秦國借兵。爭奈秦王不允。將小官羈留驛亭。小官恐負前言。楚國有失。乃倚牆而哭。七日七夜。水漿不食到口。如今秦王呼喚。須索見來。若再不肯時節。我拚的紐住秦王。將頸血蘸他衣服之上。必然肯發救兵。不負我復楚之誓。令人報復去道。有申包胥來了也。

〔卒子云〕

喏。報的大王得知。有申包胥到於門首。

〔申包胥上り、詩に云ふ〕

千里より來つて救兵を借る。秦王何事ぞ相應ぜず、憐むべし七日號んで幾んど絶ゆ。血淚斑斑として驛亭に在り。小官は申包胥、秦國に到つて兵を借る。爭奈せん秦王允さず。小官をば驛亭に羈留す。小官前言に負き、楚國失ふあらんことを恐れ、乃ち牆に倚りて哭すること七日七夜、水漿も會て口に到らず。如今秦王呼喚す。須索らく見え來るべし。若し再び肯ぜざる時節は、我秦王を紐住つて、頸血を他の衣服の上に蘸ぐに拚さん。必然に肯て救兵を發し、我が楚を復するの誓に負かざらん。令人、報復去道。申包胥來れる有りと。

〔卒子云ふ〕

喏、大王に報的得知。申包胥門首に到れる有り。

〔秦昭公云〕

着他過來。

〔卒子云〕

着過去。

〔申包胥做見科。云〕

俺楚王懸望大國救兵。不管饑渴。大王怎生不念親好。忍坐視乎。

〔秦昭公云〕

大夫。因你日夜號哭。忠烈動人。某今借與你十萬雄兵。命姬輦爲帥。即日救楚。你意下如何。

〔申包胥云〕

多謝了大王。俺主公必當重報。

〔秦昭公云〕

令人。與我喚將姬輦來者。

〔秦の昭公云ふ〕

着他過來。

〔卒子云ふ〕

着過去。

〔申包胥見ゆるを做す科。云ふ〕

俺が楚王大國の救兵を懸望すること饑渴も管ならず。大王怎生で親好を念はずして坐視するに忍びんや。

〔秦の昭公云ふ〕

大夫よ、你日夜號哭し忠烈人を動かすに因つて、某今你に十萬の雄兵を借與し、姬輦を命じて帥と爲し、即日楚を救はしめん。你的意下如何ぞや。

〔申包胥云ふ〕

大王に多謝す。俺が主公必ず當に重く報すべし。

〔秦の昭公云ふ〕

令人、我が與に姬輦を喚び將ち來れ。

〔卒子云〕

姬釐安在。

〔淨扮姬釐上。詩云〕

千鈞力氣生來有。單被子胥出盡醜。直自當年舉鼎來。至今閃了右邊手。某乃姬釐是也。官封大將軍之職。主公呼喚。不知有甚差遣。令人報復去道。是俺姬釐來了也。

〔卒子報科。云〕

姬釐到。

〔姬釐做見科。云〕

主公喚姬釐。那廂使用

〔申包胥云〕

久聞元帥大名。如雷貫耳。今蒙大王憐愍。敝國肯發救兵。有勞

〔卒子云〕

姬釐安くに在りや。

〔淨扮姬釐に扮して上り、詩に云ふ〕

千鈞の力氣生來有り。單子胥に醜を出し盡さる。直に當年鼎を挙げ來りし自り、今に至るまで右邊の手を閃めたり。某は乃ち姬釐是れなり。官は大將軍の職に封ぜらる。主公呼喚す。甚の差遣あるかを知らず。令人、報復し去いて道へ、是れ俺姬釐來れりと。

〔卒子報する科。云ふ〕

姬釐到れり。

〔姬釐見ゆるを做す科。云ふ〕

主公姬釐を喚ぶ。那廂使用。

〔申包胥云〕

久しく元帥の大名を聞くこと、雷の耳を貫くが如し。今大王の敝國を憐愍するを蒙り、肯て救兵を

元帥領兵前赴。眞乃小官萬幸。
〔姬輦云〕

不敢不敢。

〔秦昭公云〕

姬輦。我今撥與你十萬雄兵。同
申包胥救楚去。你可小心在意
者。

〔姬輦云〕

主公。某想伍員在臨渚會上。拳
打劇賊。脚踢卞莊。文賽百里奚。
武過末將。主公着他做了盟府。
又與他一口寶劍。筵前舉鼎。欺
人太甚。某今領十萬雄兵。一來
救楚。二來就擒拏伍員。雪我臨
渚之恥。

〔秦昭公云〕

第 四 折

發せられ、元帥を勞して兵を領し前赴せしめらる
る有り。眞に乃ち小官の萬幸なり。

〔姬輦云ふ〕

不敢不敢。^{（どういせしやう）}*

〔秦の昭公云ふ〕

姬輦よ、我今^{（いま）}你に十萬の雄兵を撥し、申包胥と同
に楚を救ひに去かしむ。你可^{（なんぢ）}に小心在意者^{（しんじんいしやう）}。

〔姬輦云ふ〕

主公よ、某^{（われ）}想ふに伍員臨渚會上に在つて、拳もて
劇賊を打ち、脚もて卞莊を踢り、文は百里奚に賽
ぎ、武は末將に過ぐ。主公他^{（ほか）}をして盟府^{（めいふ）}做らしめ、
又他^{（ほか）}に一口の寶劍を與ふ。筵前に鼎を擧げて人を
欺くこと太甚^{（はなはだ）}し。某^{（われ）}今十萬の雄兵を領し、一來に
は楚を救ひ、二來には就^{（すなは）}ち伍員を擒拏して、我が
臨渚の恥を雪がん。

〔秦の昭公云ふ〕

六五

只願你馬到功成。奏凱而還。某當與百里奚大夫。迎勞函關之外。你則小心的着志者。

〔詩云〕

出函關。鳴笳疊鼓。至郢都。揚威耀武。破伍員。誓滅強吳。助包胥。重扶弱楚。

〔同百里奚下〕〔申包胥云〕

元帥。你早到楚國。一日。解俺一日之難。不可遲延。有失本望。

〔姬馨云〕

即日傳令。大小三軍。拔營而起。直赴楚國。救援去來。

〔申包胥詩云〕

千里投人。實是難。甘心就死。不空還。

只願はくは、你馬到らば功成り、凱を奏して還らんことを。某當に百里奚大夫と函關の外に迎へ勞はるべし。你則小心的着志者。

〔詩に云ふ〕

函關を出でて笳を鳴し鼓を疊し、郢都に至つて威を擧げ武を輝かさん。伍員を破り誓つて強吳を滅し、包胥を助け重ねて弱楚を扶けん。

〔百里奚と同じに下る〕〔申包胥云ふ〕

元帥、你早く楚國に到ること一日なれば、俺が一日の難を解かん。遲延して本望を失ふある可らず。

〔姬馨云ふ〕

即日令を大小の三軍に傳へ、營を抜いて起ち、直ちに楚國に赴き、救援し去かん。

〔申包胥詩に云ふ〕

千里より人に投ず實に是れ難し。甘心死に就き空しく還らず。

〔姬輦詩云〕

若非七日墻邊泣。焉得雄兵便出關。

〔同下〕〔正末領卒子上云〕

某楚昭公。只爲一口湛盧劍。不與吳國。惹的伍子胥兵來伐楚。好生危急。今幸申包胥借得秦兵與子胥交戰。誰想子胥爲有盟誓在前。即便收兵罷戰而去。目今楚國重安。皆申包胥之力也。

〔唱〕

〔雙調新水令〕包胥烈氣子胥知。聽的道借軍來。他可便引兵先退。那借兵的如從天上下。那收

〔姬輦詩に云ふ〕

若し七日墻邊に泣くに非ずんば、焉んぞ雄兵を得て便ち關を出でん。

〔同に下る〕〔正末卒子を領して上り云ふ〕

某は楚の昭公、只一口湛盧の劍を吳國に與へざりしが爲に、伍子胥の兵來りて楚を伐つを惹的して好生危急なり。今幸に申包胥秦兵を借り得て、子胥と戰を交ふ。誰か想はん子胥盟誓の前に在る有りしが爲に、即便兵を收め戰を罷めて去かんとは。目今楚國重ねて安きは皆申包胥の力なり。

〔唱ふ〕

包胥の烈氣は子胥知れり。軍を借り來ると道ふを聽いて、他可に便ち兵を引いて先づ退く。那の兵を借るは天上より下るが如く、那の

兵的那裏也凱歌回。這兩個誰是誰非。眞乃是忠孝各完備。

〔云〕

令人。與我請將申包胥來者。

〔卒子云〕

申包胥安在。

〔申包胥上云〕

小官申包胥。借起秦兵。與子胥交戰。誰想子胥不忘舊交。將城池地面復還與楚。卽日班師還他本國去了。今幸楚國無恙。主公着人來請。須索走一遭去。令人報復去道。有申包胥來了也。

〔卒子云〕

兵を收むる的那裏も也凱歌して回る。この兩個誰か是非なる。眞に乃ち是れ忠孝各完備す。

〔云ふ〕

令人、我が與に申包胥を請じ將ち來れよ。

〔卒子云ふ〕

申包胥安くに在りや。

〔申包胥上り云ふ〕

小官は申包胥、秦兵を借り起し、子胥と戰を交ふ。誰か想はん子胥舊交を忘れず、城池地面をば復楚に還與し、卽日師を班し他の本國に還り去けり。今幸に楚國恙無し。主公人をして來り請ぜしむ。須索らく走くこと一遭し去くべし。令人報復去道。申包胥來れる有りと。

〔卒子云ふ〕

申包胥到。

〔正末云〕

快請過來

〔卒子云〕

請過去。

〔申包胥做見科〕〔正末云〕

此一場大功多虧了大夫也。

〔申包胥云〕

托賴主公洪福。小官何功之有。

〔正末唱〕

〔駐馬聽〕伍員無敵入楚地、鞭屍
尙恨遲。包胥有智借秦兵。復國
偏能疾。

〔申包胥云〕

子胥若不想舊交之情、憑着他

申包胥到れり。

〔正末云ふ〕

快く請過來。

〔卒子云〕

請過去。

〔申包胥見ゆるを做す科〕〔正末云ふ〕

此の一場の大功は多く大夫に虧れり。

〔申包胥云ふ〕

主公の洪福に托賴す。小官何の功か之れあらん。

〔正末唱ふ〕

伍員敵無く楚の地に入る。屍に鞭つも尙遲き
を恨む。包胥智有り秦兵を借る。國を復して
偏に能く疾し。

〔申包胥云ふ〕

子胥若し舊交の情を想はず、他の武藝に憑らば、

武藝。量小官到的那裏。

〔正末唱〕

雖然他會臨潼八面虎狼威。怎
知你倚蕭牆七日的英雄淚。

〔做悲科〕〔申包胥云〕

主公爲何發起悲來。

〔正末唱〕

我今日安居寶殿裏。猛想起渡
江時。不覺心如碎。

〔申包胥云〕

主公。吳兵已退。楚國重安。此乃
如天之喜。且省煩惱。

〔芊旋上云〕

某芊旋自從江邊與哥哥別後。

量るに小官那裏に到らんや。

〔正末唱ふ〕

他臨潼に會して八面虎狼の威ありと雖然も、
怎でかあなたが蕭牆に倚る七日の英雄の涙に如か
んや。

〔悲しむを做す科〕〔申包胥云ふ〕

主公何の爲に悲しみを發起し來るや。

〔正末唱ふ〕

我今日寶殿裏に安居す。猛に江を渡る時を想
ひ起し、覺えず心碎くが如し。

〔申包胥云ふ〕

主公よ、吳兵已に退き楚國重ねて安し。此れ乃ち
天の如き喜びなり。且つ煩惱する省れ。

〔芊旋上り云ふ〕

某芊旋江邊にて哥哥と別れて自り後、一向隨の地

一向避於隨地。可早半年光景也。聽的申包胥借起秦兵。重扶楚國。我如今回去。見我哥哥咱。令人報復去道。有芊旋在於門首。

〔卒子云〕

喏。報的大王得知。有二公子來了也。

〔正末云〕

快有請。

〔卒子云〕

請進去。

〔芊旋做見科〕〔正末云〕

兄弟也。你在那裏來。

〔芊旋云〕

您兄弟自與哥哥相別之後。流

に避け、可早半年の光景なり。申包胥秦兵を借り起し、重ねて楚國を扶くと聽き、我如今回りに去き、我が哥哥に見えん。令人よ、報復去道、芊旋門首に在る有りと。

〔卒子云〕

喏、大王に報的得知。二公子來れる有り。

〔正末云〕

快く有請。

〔卒子云〕

請進去。

〔芊旋見ゆるを做す科〕〔正末云〕

兄弟よ、你那裏より來れるや。

〔芊旋云〕

您兄弟哥哥と相別れしの後、隨の國に流落す。哥

落隨國。聽知哥哥復楚。一徑的尋將來也。

〔正末唱〕

〔沉醉東風〕自間別伯夷叔齊。我常只是坐想行悲。

〔辛旋云〕

許久不見哥哥。請受您兄弟幾拜。

〔正末唱〕

既然爲兄弟情。講甚賓朋禮。想當年在小船中。寸步難移。

〔辛旋打悲科。云〕

您兄弟豈望今日與哥哥相見也。

哥哥の楚を復するを聴き知り、一徑的尋ね將ち來れり。

〔正末唱ふ〕

伯夷叔齊に間別せしより、我は常に只是れ坐して想ひ行きて悲しむ。

〔辛旋云ふ〕

許久見ず。哥哥よ、請ふ您兄弟の幾拜を受けよ。

〔正末唱ふ〕

既然に兄弟の情を爲す。甚の賓朋の禮を講せんや。想ふに當年小船の中に在り、寸歩も移し難し。

〔辛旋悲しむを打す科、云ふ〕

您兄弟豈今日哥哥と相見るを望まんや。

〔正末云〕

令人按排酒果來與兄弟拂塵者。

〔唱〕

今日相逢有限期。我又恐怕是南柯夢裏。

〔云〕

兄弟你滿飲一杯。

〔莘旋云〕

你兄弟吃不下這酒去。

〔正末云〕

兄弟你爲甚麼吃酒不下。

〔莘旋云〕

您兄弟心下則想着嫂嫂和姪兒哩。

〔正末云ふ〕

令人酒果を安排し來れ。兄弟の與に塵を拂はん。

〔唱ふ〕

今日相逢ふ限有るの期。我又恐怕る是れ南柯の夢裏ならんことを。

〔云ふ〕

兄弟よ、你一杯を滿飲せよ。

〔莘旋云ふ〕

你兄弟這の酒を吃不下去。

〔正末云ふ〕

兄弟よ、你甚麼の爲に酒を吃みえざるや。

〔莘旋云ふ〕

您兄弟の心下、則嫂嫂と姪兒とを想ふ。

〔正末云〕

兄弟、你嫂嫂有。

〔莘旋云〕

既然有嫂嫂。何不請將出來相見咱。

〔正末云〕

令人請將夫人來者。

〔卒子云〕

夫人有請。

〔二旦上云〕

妾身乃楚昭公繼室夫人。大王

呼喚。須索見去來。

〔做出見科〕〔正末云〕

兄弟。兀的不是您嫂嫂。

〔莘旋做認科。云〕

哥哥。這個那裏是我那嫂嫂也。

〔正末云ふ〕

兄弟よ、あなたの嫂嫂有り。

〔莘旋云ふ〕

既然に嫂嫂有らば、何ぞ請じ將ち出で來りて相見えしめざるや。

〔正末云ふ〕

令人、夫人を請じ將ち來れよ。

〔卒子云ふ〕

夫人、有請。

〔二旦上り云ふ〕

妾身は乃ち楚の昭公の繼室の夫人なり。大王呼喚

す。須索らく見え去くべし。

〔出でて見ゆるを做す科〕〔正末云ふ〕

兄弟よ、兀的您的嫂嫂ならずや。

〔莘旋認むるを做す科、云ふ〕

哥哥よ、這個は那裏で是れ我が那の嫂嫂ならんや。

〔正末云〕

兄弟也可知。不是你那嫂嫂哩。

〔唱〕

〔落梅風〕他身喪在波濤內。名標在書傳裏。死便死。猶存生氣。我今日正椒房。怕沒有結髮的妻。

〔云〕

兄弟也。當初棄了嫂嫂姪兒。留得你在。哥哥今日還有嫂嫂。少的生下姪兒。若無了你呵。

〔唱〕

那裏去再尋個同胞兄弟。

〔旦兒領俵兒上云〕

妾身自同孩兒下水之後。謝天

〔正末云〕

兄弟也。知得可。你那的嫂嫂ならざるを。

〔唱〕

他の身は波濤の内に喪はれ、名は書傳の裏に標せらる。死するは便ち死するも猶生氣を存す。我今日椒房を正すは結髮の妻沒有を怕るればなり。

〔云〕

兄弟よ、當初我は嫂嫂姪兒を棄てて、你を留め得て在り。哥哥は今日還嫂嫂あり。姪兒を生下するに少不的。若し你無くんば。

〔唱〕

那裏に去いて再び個の同胞兄弟を尋めん。

〔旦兒俵兒を領して上り云〕

妾身は孩兒と共に水に下りし自り後、謝す天地憐

地可憐。將俺母子救於岸上。投到一箇人家喚做申屠氏。見說是楚昭公的夫人。將我十分供養。不覺過了半年光景。聽知俺大王已復楚國。我如今引着孩兒認他去。這便是宮門外了。令人報復去道。有大王的親眷在於門首。

〔卒子云〕

喏。報的大王得知。有兩個親眷在門首求見哩。

〔正末云〕

我有什麼親眷在那裏。兄弟待我自看去咱。

〔唱〕

〔甜水令〕幸的個宜弟宜兄。無災

まれ、俺母子をば岸上に救ひ、一箇の人家申屠氏と喚び做すに投じ到る。是れ楚の昭公の夫人と説はれて、我をば十分に供養し、覺えず半年の光景を過せり。我が大王已に楚國を復すと聞き知り、我如今孩兒を引きて他に認ひに去く。這れば便ち是れ宮門外なり。令人、報復去道。大王の親眷門首に在る有りと。

〔卒子云〕

喏、大王に報的得知。兩個の親眷門首に在つて見ゆるを求むる有り。

〔正末云〕

我に什麼の親眷の那裏に在る有らんや。兄弟よ、待我自ら看に去かん。

〔唱〕

幸にも弟に宜しく兄に宜しく、災無く難無く、

無難。同歡同會。我這裏那步出
宮闈。遠聽聲音。近觀相貌。端詳
仔細。

〔旦兒云〕

大王萬福。

〔正末做驚科〕〔唱〕

呀原來是俺咏雕鳩窈窕元妃。

〔云〕

您母子每在何處來。

〔旦兒云〕

妾身自與大王離別之後。投於
漢江。料無生理。不想水中金光
閃爍。冷氣逼人。一位神聖將妾
身救于岸上。都是漫漫的蘆葦。

歡を同じうし會を同じうす。我這裏は步を那
して宮闈を出で、遠く聲音を聽き、近く相貌
を觀ること端詳仔細なり。

〔旦兒云ふ〕

大王萬福。（こけんまふ）*

〔正末驚くを做す科〕〔唱ふ〕

呀、原來是れ俺が雕鳩を咏せる窈窕の元妃な
り。

〔云ふ〕

您母子每何處より來れる。

〔旦兒云ふ〕

妾身は大王と離別せし自り後、漢江に投ず。料
に生きる理無し。想はざりき、水中金光閃爍冷氣
人に迫り、一位の神聖妾身を岸上に救はんとは。
都て是れ漫漫たる蘆葦、正に徬徨の際に在り、則

正在徬徨之際。則見孩兒也。從江中爬上岸來。問其緣故。原來爲着風浪越猛。相繼下水。也見一位神聖。救了性命。俺母子投到一個申屠氏家。住了半年。大王今日復立家邦。那知俺母子每在漢江中受盡苦楚。說兀的做甚。

〔詩云〕

當年母子沒風湍。爲保君王玉體安。雖然幸得神明護。只恐後人奪却故人歡。

〔正末唱〕

〔折桂令〕我則道你趁橫波一去無消息。可正是堂上糟糠。休猜做牆上泥皮。想當日船小江深。

見る孩兒も也江中より爬ひ上り來るを。其の緣故を問へば、原來風浪、越猛なるが爲に、相繼いで水に下るに、也一位の神聖に性命を救はると。俺が母子一個の申屠氏の家に投じ到り、住まること半年、大王今日復家邦を立つ。那ぞ知らん俺が母子每は漢江中に在つて苦楚を受け盡すを。說兀的做甚。(二六)

〔詩に云ふ〕

當年母子風湍に沒せしは、君王の玉體の安きを保せんが爲なり。幸に神明の護を得たりと雖然も、只恐る後人が故人の歡を奪却せんことを。

〔正末唱ふ〕

我は則道ふ、你横波を趣うて一去消息無しと。可正是堂上の糟糠なり。牆上の泥皮と猜ひ做すこと休れ。想ふに當日船小に江深く、風高

風高浪湧。雲鎖天低。若不是賢達婦三從四德。若不是仁孝子百順千隨。我則道夫婦分離父子乖違。怎能彀再得團圓。還見這笑眼歡眉。

〔辛旋云〕

哥哥。當日在漢江之上。情願捨了嫂嫂姪兒。留您兄弟。豈知嫂嫂姪兒安然無事。可見天道無親。常與善人。信不誣也。

〔秦百里奚上云〕

某乃秦國百里奚是也。奉主公的命。要將金枝公主。與楚昭王小公子爲婚。遣某送吉帖來此。令人報復去道。有秦國使命在

く浪湧き、雲鎖し天低る。若し是れ賢達の婦、三從四德ならず、若し是れ仁孝の子百順千隨ならずんば、我は則道ふ夫婦分離し、父子乖違すと。怎能か能彀再び團圓を得、還這の笑眼歡眉を見んや。

〔辛旋云ふ〕

哥哥よ、當日漢江の上に在り、嫂嫂姪兒を捨てて、您兄弟を留めんと情願す。豈知らんや、嫂嫂姪兒安然無事ならんとは。見る可し天道親無く、常に善人に與すとは、信に誣ひざるなり。

〔秦の百里奚上り云ふ〕

某は乃ち秦國の百里奚是れなり。主公の命を奉じ金枝の公主をば楚の昭王の小公子と婚を爲さんと要し、某を遣して親しく吉帖を送りて此に來らしむ。令人、報復去道、秦國の使命門首に在る有り

於門首。

〔卒子報科。云〕

喏。報的大王得知。有秦國使命求見。

〔正末云〕

快請進來。

〔卒子云〕

請進。

〔百里奚做見科。〔正末云〕

前者多得秦王借兵救援。使寡人復還楚國。感恩非淺。只因喪敗之後。百事未理。有失報謝。今日重勞大夫遠涉敝地。益增惶恐。

〔百里奚云〕

救災恤鄰。乃是常禮。何足爲謝。

と。

〔卒子報する科。云ふ〕

喏、大王に報的得知。秦國の使命見ゆるを求むる有り。

〔正末云ふ〕

快く請進來。

〔卒子云ふ〕

請進。

〔百里奚見ゆるを做す科。〔正末云ふ〕

前者多く秦王の兵を借して救護するを得て、寡人をして復楚國に還らしむ。恩に感ずること淺きに非ず。只喪敗の後、百事未だ理まらざるに因つて、報謝を失する有り。今日重ねて大夫を勞し、遠く敝地に涉らしむ。益増惶恐す。

〔百里奚云ふ〕

災を救ひ鄰を恤むは乃ち是れ常禮、何ぞ謝を爲す

小官今此一來。不爲別事。乃奉主人之命。有金枝公主。願與大王小公子結婚。遣小官親齎吉帖送上。倘勿棄嫌。實爲萬幸。

〔正末云〕

寡人有何德能。敢勞秦王如此錯愛也。

〔唱〕

〔沽美酒〕謝大王憐下國。借猛將解重圍。也只爲喪敗初還百無備。尙未及酬恩報德。非是俺急時優緩時棄。

〔太平令〕自鬪寶臨潼赴會。賜無祥公主來歸。曾對天割襟爲記。

に足らんや。小官今此の一來は別事の爲ならず。乃ち主人の命を奉じ、金枝の公主有り、大王の小公子と婚を結ばんと願ひ、小官を遣して親しく吉帖を齎して送上せしむ。倘し棄嫌する勿くんば實に萬幸と爲す。

〔正末云ふ〕

寡人何の德能有つてか、敢て秦王の此の如き錯愛を勞するや。

〔唱ふ〕

謝す大王下國を憐まれ、猛將を借して重圍を解くを。也只喪敗の初め還百備はる無きが爲に、尙未だ恩に酬い德に報ゆるに及ばず。是れ俺急なる時優り緩なる時棄つるに非ず。

寶を鬪はして臨潼會に赴き、無祥公主を賜うて來り歸がしめしより、曾て天に對し襟を割

願世世無相違背。這信誓在彼
怎悔。難得見今朝這日。

〔百里奚云〕

小官聞知。大王避難漢江。因風
浪陡作。將夫人小公子。都送下
水。可怎生又得完聚。敝國僻遠。
不知其詳。請大王試說一遍。容
小官洗耳拱聽。

〔正末唱〕

〔錦上花〕當日個避難臨江扁舟
同濟。陡遇風波稍子驚啼。

〔云〕

他道是船小不能重載。內中有
疎者。請一位下水。方纔有救。

いて記と爲し、世世相違背すること無きを願
ふ。這の信誓彼に在り怎で悔ひん。今朝這の
日を見るを得難し。

〔百里奚云ふ〕

小官聞き知る。大王難を漢江に避け、風浪の陡
作るに因つて、夫人小公子をば都て水に送下すと。
可怎生又完聚するを得しや。敝國僻遠にして、其
の詳を知らず。請ふ大王試みに説くこと一遍、小
官の耳を洗つて拱聽するを容せ。

〔正末唱ふ〕

當日個難を避け江に臨み扁舟にて同に濟る。
陡風波に遇つて稍子驚啼す。

〔云ふ〕

他は道ふ是れ船小にして重載する能はず、内中に
疎なる者有らば、請ふ一位水に下らば、方纔救ふ

〔唱〕

他道所未傾危。剛爭半米。疎者
非親請其下水。

〔么篇〕夫人先拜辭。稚子繼沉溺。
也只爲兄弟情深難忍拋離。誰
想龍神暗中呵衛。死者重生。生
者不愧。

〔百里奚云〕

有這等事。可也難得。

〔正末唱〕

〔清江引〕可又得金枝公主成配
匹。豈不是天緣美。永爲唇齒邦。
萬古干戈息。將着甚的般花紅。

第四折

有らんと。

〔唱ふ〕

他は道ふ、未だ傾危せざる所、剛に半米を爭
ふ。疎者親に非ざるを其れに請うて水に下ら
しめよと。

夫人先づ拜辭し、稚子繼いで沉溺す。也只兄
弟の情深きが爲に、拋離するに忍び難し。誰
か想はん龍神暗中に呵衛せんとは。死者は重
ねて生き、生者は愧ぢず。

〔百里奚云ふ〕

這等事有るは、可也得難し。

〔正末唱ふ〕

可に又金枝の公主を得て配匹と成す。豈是れ
天縁の美ならずや。永く唇齒の邦と爲り、萬
古干戈息まん。甚の般花紅を將つて、你個

八三

酬謝你個秦百里。

〔羊旋云〕

今日俺一家團圓。又得與秦國結親。永爲唇齒。真乃天大的喜事。就此殿庭之上。擺設起滿堂花。遍地錦。堆番牛簍下酒。做個慶喜筵席。款待百里奚大夫。到明日仍遣申包胥入秦報謝者。

〔正末唱〕

〔收尾〕殿庭中擺設下千金席。列兩行鸞歌鳳吹。不爭爲青鋒劍攪惹了那場災。還落的赤繩書接受了這重喜。

題目 伍子胥一戰入郢
正名 楚昭公疎者下船

の秦の百里に酬謝せんや。

〔羊旋云ふ〕

今日俺が一家團圓、又秦國と親を結び、永く唇齒と爲るを得たるは、真に乃ち天大の喜事なり。此の殿庭の上に就いて、滿堂の花、遍地の錦を擺設し起し、牛を堆番し、酒を簍下し、個の慶喜の筵席を做し、百里奚大夫を款待して、明日に到れば仍ほ申包胥を遣はして秦に入りて報謝せしめん。

〔正末唱ふ〕

殿庭の中に千金の席を擺設下し、兩行の鸞歌鳳吹を列す。不爭青鋒の劍、那の場の災を攪惹せしが爲に、還落得赤繩の書、この重喜を接受せんとは。

題目・伍子胥一戰して郢に入り、
正名 楚の昭公疎者船より下る。

語 釋 (數字は頁
數を示す)

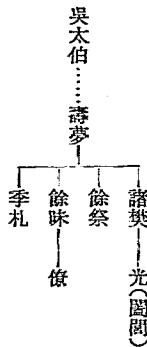
第一 折

【一】太伯 周の太王の長子、國を末弟季歷に譲つて吳に逃れた。是が吳國の祖である。

【二】子姓 子孫のこと。

【三】延陵 春秋の時吳の邑。季札此所に封を受けて延陵の季子と稱す。茲には季子位を譲れる故事を云ふ。初め吳王壽夢に四子あり。諸樊・餘祭・餘昧・季札といふ。

王は季札の賢を愛し、兄弟相傳へて季札に及ばしめんとしたが、季札は位を辭して餘昧の子王僚が嗣いだ。然るに諸樊の子光は之を弑して自立した。これが即ち吳王闔



語釋 第一 折

閭である。

【一】魚腸・純鉤・湛虛 皆名劍をいふ。越絶書及び吳越春秋に見ゆ。(後出)

【二】歐冶子 春秋に名高き刀工。嘗て越王允常の爲に湛盧・純鉤・勝邪・魚腸・巨闕の五劍を鑄たといふこと、越絶書に見ゆ。

【三】楚昭公 楚は武王以來王號を稱して居る。従つて本書の題名も他の本には楚昭王。疎者下船となつて居るが、その方が正しい。

【四】更待干罷 ものまゝには、おかぬといふ意。

【五】十三篇 孫子十三篇、孫武子の著と傳ふ、今存す。

【六】教三練女兵數千 孫武子が吳王の前にて宮女を借りて教練せしこと。史記列傳に見ゆ。

【七】一壁有者 側わきにひかへよ。者は助辭。

【八】間關 道の困難なること。漢書王莽傳の注に「間

關猶「言崎嶇展轉」也」とある。

【四】短齋閑向市中吹元曲選に、「伍員吹簫雜劇」がある。伍子胥が楚を逃れて呉に走り、市中に簫を吹いて口を糊しつゝ、復讐を謀るを關目としてある。

【五】舉鼎威臨瀆の會（秦が盟主となつて十七諸侯の會議を開いた）に、伍子胥が鼎を擧げて威力を示し、秦の將軍姬甯を威壓して、呉の太子光を救ひ、無事に歸國するを得たこと。東周列國志に見ゆ。

【六】斷水吹毛 刀の斬れ味のよきに喩ふ。斷水とは水を截ち斷ること。吹毛とは毛を刃に吹きつけば兩斷される意。

【七】殺「的」他 闘ふ、打ちのめす意。

【八】尿流屁滾 狼狽の狀。

【九】包 管包の略、請合ふ意。

【一〇】點就 點檢すること。

【一一】馬到成「功」 一戰して敵を破る意。

【一二】管取 管包に同じ。取は助辭。

【一三】風胡子 刀工、楚の昭王の爲に干將と歐冶子とに

請ひ、龍淵・泰阿・工布の三劍を鑄しこと越絶書に見ゆ。

【一四】可怎了也 いかにせんのか。可は助辭。

【一五】強殺者波 たかがといふ意。強はすぐれる。者波は助辭。

【一六】斗牛 二十八宿中の二星座。天を指して云ふ。

【一七】做「甚麼」 どうするつもり。

【一八】休「做」等閒看「そまつにするな」の意。

【一九】英英結秀。湛湛生斑 刀身の生彩あるやきの模様をいふ。

【二〇】耶溪之水。赤重之山 越國に在り。歐冶子の劍を鑄た時この地の銅錫を用ひたといふ。越絶書に「當「造」此劍之時、赤重之山破而出錫、若耶之谿涸而出銅、雨師掃灑、雷公擊橐、蛟龍捧爐、天帝裝炭、太一下觀、天精下之。歐冶子乃因天之精神、悉其技巧」と、なか／＼勿體らしく記してある。

【二一】天塹 長江を云ふ。南史孔範傳に隋師將「濟」江。

羣官請爲防。……範奏曰、長江天塹、古來限隔、虜軍豈能飛渡。」とあり、また南唐書に「大江天塹、風濤無常」とある。

【二】喏 やあといふ挨拶。

【三】報的大王得知 取次ぐこと。おしらせ申す。

【四】道有請 どうぞと案内すること。おとうし申せ。

【五】呈公案 訴訟を起す意に使はれるが、こゝは戦を挑む意である。

【六】本事 てなみ。才能。

【七】無敵手 戦難應 敵對するだけの勇士が居らねば戦争は出来ないといふ意。

【八】抵多少 あたかも。又さも似たりと訓す。

【九】惡語傷人六月寒 人を冷かすこと。暑中の寒は酷く身にこたへるを云ふ。西廂記にも「甜言美語三冬煖。

惡語傷人六月寒」の句がある。

【一〇】無也波端 ゆくりなくも。無端に同じ。也波は助辭。

【一五】擇士宮 燕の昭王が郭隗の爲に宮を築いて之に師事した故事。史記燕世家に見ゆ。

【一六】拜將壇 漢王が韓信の爲に壇を設けて大將に拜した故事。史記淮陰侯列傳に見ゆ。

【一七】楚産 楚國出身の人物。孟子滕文公上に云ふ「陳良楚産也」と。

【一八】便了 よろし。今の俗語就是了に同じ。

【一九】理會的 かしこまりました。肯諾の意。

【二〇】同主公話 主公に御返事申す。

【二一】氣賭 立腹の意。

【二二】盟府 もと盟約を掌る官府であるが、茲には議長を云ふ。

【二三】隄防 ふせぐ、用心する意。

【二四】這班 朝班を指して云ふ。

【二五】那番 那一番の略。先般といふ如し。

【二六】那裏取 いかで……あらん。取は助辭。

【二七】多敢 おほかた。多分に同じ。

【一八】閃寶鑑 競技會のこと。

【一〇】溫涼玉盞 此の盞に酒をつげば、冬は温く夏は涼し、恰も今の魔法塚の如し。

【一〇】曲躬躬 うや／＼しく、鞠躬如として。

【二〇】差時 無道の世をいふ。

【一〇】則索 只索に通ず。ひたすらと訓す。

【二二】姬公旦 周公旦のこと。周は姬姓。暗に申包胥を指す。

【二三】邛邛坂 四川の天險。

【一〇】小可如 …よりやゝよからん。

【二三】惡心煩 煩悶すること。

【一〇】那猛將過昭關 伍子胥の楚國に討入ること。昭關は吳楚の境に在る關門。今安徽省含山縣に在り。

【二四】淹的過 淹過はおくらす意。的は得に同じ。

【一〇】火性兒全然都放坦 短氣を慎しみ、坦懷なる意。

【二五】洗塵酒 歡迎會。

【一〇】生則怕 只恐るの意。生は助辭。

第二折

【三七】人有好的 善人。

【一〇】人有歹的 惡人。

【一〇】白厮頼 ごまかす。厮は助辭。

【一〇】逃走短命的弟子孩兒 罵詞、よはひし奴又くたばりそこないの青二才といふ如し。

【一〇】耍一耍 勝敗を一賭する意。一勝負する。

【二八】敢待 おほかた。待は欲すの意。

【一〇】將陣脚射住 矢ごろをはかつて陣取る。

【一〇】兀自 なほ、尙兀自の略。

【二九】依還的 舊に依つて、なほ。

【一〇】合後 殿軍、しんがり。

【一〇】投鞭見血 斷長江 大軍の押寄するを云ふ。秦王苻堅の故事。晉書苻堅載記に云ふ「堅曰、雖有長江、其能固乎。以吾之衆旅、投鞭於江、足斷其流」と。

【二九】探囊兒 囊中の物を取る如く容易なること。五代史卷六十二南唐世家に云ふ。一熙載謂李穀曰、江左用吾爲相、當長驅以定中原。穀曰、中國用吾爲相、取江南如探囊中物爾と。

【一〇】大剛來 おほかた。大概に同じ。

【一】落得 只落得とも用ふ。はては、といのつまり、結果、結局さうなるの意。

【三〇】圖要子 手合せをする。

【一】你每 你們に同じ。

【一】做的來不周 仲の悪いこと。

【一】不是冤家不聚頭 かたき同士のめぐり逢ひの意。琵琶記二十一齣にも見え、よく引かれる諺である。

【一】可兀的便肯干休 そのまゝにはおかぬ。可兀的はいかで（反語）と訓す。

【三一】兀的般 かくばかり。

【一】淹的呵 たちまち。

【一】氣的呵 氣盛、氣のもつれること。

【一】連牛 牛は廿八宿中の牛宿。天に連なる意。

【三二】獅蠻 獅子と蠻王との刺繍をせる戰袍。東京夢華錄に、「重陽、都人各以粉麝蒸餾遺送。上挿剪綵小旗、又以粉作獅子蠻王之狀。置於糕上。謂之獅蠻」と云ひ、又元曲趙氏孤兒三折には「按獅蠻二拽三札起錦征袍」の句がある。

【一】款髡 ちやんと身にまとふこと。

【一】亂丟 ふりみだす。

【一】點鋼鎗 槍の柄に鋼の鋌を打つたものか。

【一】鐵胎弓 鐵を心にして造つた弓か。

【一】率率的 無造作にといふ意。率意。

【一】雕翎 鷹の羽をつけた箭。

【一】一般 一樣。

【一】摺捏 さかしら。

【一】管管取的略。

【一】不發 足らず。

【三三】戴南冠 你個活楚囚 南冠は楚人の冠。個は一個

の略、意輕く、定冠詞の如し。左傳成公九年に云ふ、「南冠而縶者誰也。有司對曰、鄭人所獻楚囚也」と。

【三三】兩下裏不_レ相授_二力相敵せず、敵手にならぬ意。

【三】休休 だめだ／＼。

【三】賣口 じまんいふこと。

【三四】眼睜睜 ぎよろ／＼。まのあたりの意。

【三】潑殘生 罵詞。死にはぐれ奴。

第三折

【三六】四耗九醜 大厄日をいふ。

【三】稍公 船頭。

【三七】個尿出子六個弗_レ得眠 子は則の普通。個は一個の略。

【三】打魚 網にて魚を捕ること。歸田錄に云ふ。「網

魚者曰、打魚_二汲_レ水者曰、打水_二役夫餉_レ飯曰、打飯_二と。

【三】不_レ成活路_一 逃路を失ふ。

【三八】徧生的 あいにく。

【三】能勾 よく。勾は殺と通ず。

【三九】稱_二子胥_一 子胥にかなふ。胥音埒に通ず。むこを云ふ。親の仇を報じたれば子埒の名に負かずと云ふ意。

【三】去_二包胥_一 胥は胥宜に近し。包宜は包みものを云ふ。賭をして包宜を失つたとは、負けて損をするの意。

【四一】央及 たのむ。

【三】看_二個風水_一 方位を見ること。風水の迷信極めて深く、墳墓の地を相するに用ふ。

【三】量兒大 肚を太くすること。

【四三】潑天也似 潑は形容詩歹惡の意。也似はごときと訓す。

【三】潑村夫 罵語。田舎おやじと云ふ意。

【三】叫苦 困つたと云ふ意。

【三】不_レ着_レ親的 親身ならぬもの。

【四四】同氣連枝 血を分けた續きあひ。

【四九】那裏也相隨百歩 百年の契も何かせん、百年偕老は到底出來ないと云ふ意。

【一〇】從_レ新華_ニ故 再婚のこと。

【一一】好生_ニよく 生は添辭。

【一二】兒夫 兒女夫妻の略。

【一三】化身 望夫石の故事。離別を悲しみ、貞婦夫を望んで石と化せし話。幽明錄に見ゆ。

【一四】眼見的 眼見得に同じ、まのあたり。

【一五】着_レ着_レ着_レ熱 極めて相親愛する意。

【一六】探_レ環 報恩の故事。續齊諧記に見ゆ。漢の楊寶黃雀を救ひしに、夢に雀變じて黃衣の人となり、雙の玉環を贈つて曰く、此の環を持せば累世三公と爲るべしと。果して言の如しと云ふ。

【一七】死的來不_レ着_レ墳墓 水葬すること。

【一八】進_レ膠舟 周の昭王南征せし時、楚人膠舟を進めて、王を江中に弒せること。史記注に引く所の帝王世紀に見ゆ。

【一九】去_レ龍領下_ニ探明_ニ 身を氷に投ずることを云ふ。

【二〇】下_レ脚踏板 棧橋をかけること。

【二一】金魚 金魚袋。今の勳章の如きもの。宋史輿服志に、「魚袋以_ニ金銀_ニ飾爲_ニ魚形_ニ、公服則繫_ニ於帶_ニ而垂_ニ後_ニ、以明_ニ貴賤_ニ」とある。

【二二】斷送 辭書に「棄絶也」と解く、身を殺すこと。

【二三】相逢時有限期 無限に相會することは出來ない。離別の須臾に在る意。

【二四】提_レ着_レ磨_ニ向_ニ刀尖_ニ過_ニ びく／＼しながら刀下を潜つて行く。

【二五】氣_ニ吁成_ニ雲霧_ニ 氣の盛なる貌。

【二六】大都來_ニすべ_ニて。

【二七】肯分的_ニてつきり。

【二八】碌碌 ごろ／＼。無爲の狀。史記平原君列傳に云ふ、「公等碌碌、所謂因人成事者也」と。

【二九】擧_レ頭三尺有_ニ龍王_ニ 救ひの神は近きに在るの意。この語南唐書に見ゆと云ふ。(通俗編)。

第四折

【五九】爭教　いかでか。教は助辭。

【〃】佔江山　天下を一統するの意。

【六〇】羊皮百里奚　秦の穆公が百里奚の賢を聞き、五穀羊の皮を以て之を贖ひ、因て五穀大夫と稱せし故事。史記秦本紀に見ゆ。

【六五】不敢不敢　どういたしまして。

【六六】小心沿志　小心在意に同じ。用心せよ。

【七〇】八面虎狼威　八つ當りの威光。

【〃】一向　ひとしきり。

【七二】一徑的　ただちに。

【〃】間別伯夷叔齊　伯夷は附加に過ぎず。親弟に別れしこと。

【七三】拂塵　洗塵に同じく歡迎の意。

【〃】南柯夢裏　南柯の夢唐人傳奇南柯記に出づ。

【七五】正椒房　正夫人を置くこと。椒房は皇后の宮を

いふ。爾雅翼に、「椒實多而香。漢世皇后所居稱椒房」。取實蔓延盈升。以椒塗屋、亦取其溫暖」とある。

【〃】結髮的妻　初婚の妻をいふ。兒女夫妻に同じ。

【〃】少不的　たがはず。ぜいとも。相違なき意。

【七七】端詳仔細　熟視すること。

【〃】萬福　女子の挨拶。

【〃】咏離鳩　窈窕元妃　仲の睦じい正夫人。詩經に云ふ。「關關雎鳩。在河之洲。窈窕淑女。君子好逑」と。

【七八】說元的做甚　いふもせんなし。

【〃】堂上糠牆　艱難辛苦を共にした初婚の妻。「糟糠之妻不下堂」の諺がある。

【〃】牆上泥皮　妻をとりかへる意である。秋胡戲妻雜劇第二折に「常言道媳婦是壁上泥皮」とある。邦諺に、

「壘表と女房は新しいのがよい」と云ふ意。

【七九】三從四德　婦德を云ふ。三従とは儀禮喪服篇に

「未嫁從父、既嫁從夫、夫死從子」とある。四徳と

は曹大家の女誡に、「一曰婦德、二曰婦言、三曰婦容、四

「婦功」とあり、婦徳、婦言、婦容、婦功を四徳といふこと周禮に見ゆ。

【七九】金枝公主 王女を云ふ。

【八〇】無釐公主 秦の哀公の妹孟嬴、楚の昭王の母。東周列國志に見ゆ。

【八一】對天割襟爲記 誓約すること。

【八二】洗耳拱聽 よく謹聽すること。

【八三】方纔 はじめて。

【八四】剛爭半米 今すこしのところ。俗語「差不多」に同じ。

【八五】難得 あらめづらしいや。

【八六】唇齒邦 同盟國をいふ。左傳に「唇亡而齒寒」の語あり。

【八七】花紅 祝儀の禮物。東京夢華錄に「娶婦、至兒家門、從人及兒家人、乞覓利市錢物。花紅等、謂之欄門」とある。

【八八】滿堂花 華燭の意。

【八九】遍地錦 絨氈のこと。

【九〇】推番牛 牛をころす。番は釀に通ず。

【九一】窖三下酒 打酒に同じ。酒を酌み出すこと。窖はあなぐら、酒藏をいふ。

【九二】不爭 いかんせん。

【九三】青鋒劍 湛盧の劍を云ふ。青霜、霜鋒に同じ。研ぎすましたる意。

【九四】還落的 只落的に同じ。はてはさうなるの意。

【九五】赤繩書 結納の書付をいふ。

劇雜船下者疎公昭楚

有所權作著

昭和十四年四月二十五日印刷
昭和十四年四月二十八日發行

非賣品

著 作 者 鹽 谷 溫

刊 行 者 東京市神田區駿河臺三ノ一
目 黒 甚 七

刊 行 所 東京市神田區駿河臺三ノ一
目 黒 書 店

振替東京二八〇九
電話神田一〇五八

東京市神田區錦町三ノ一二
印刷者 白井 赫太郎
製本者 齋藤 半次郎

